

會

社

條

例

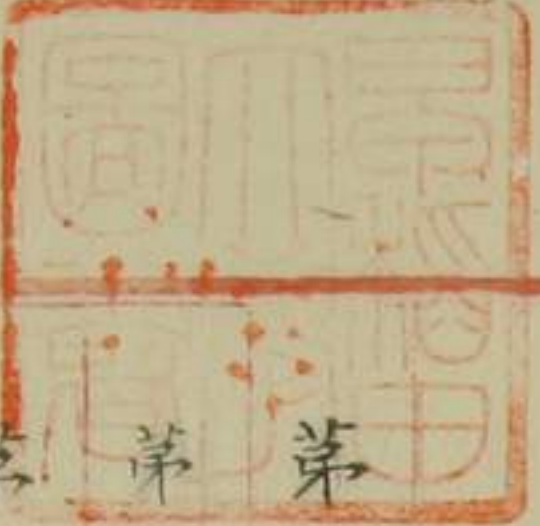
完



15c3



414
2773



- 第一條 條例畧稱
- 第二條 條例ノ發始
- 第三條 保險會社ノ釋義
- 第四條 社負人數ノ制限
- 第五條 條例ノ分篇
- 第一編 會社ノ体裁及其創立
創立證書
- 第六條 會社ノ創立ナル法
- 第七條 社負責任ノ制限法
- 第八條 株式有限會社ノ創立証書
- 第九條 保承有限會社ノ創立証書
- 第十條 無限會社ノ創立証書

大正十一年四月
限正
侯爵邸
贈

大正十一年四月

第十一条 印紙印鑑及創立証書ノ効

第十二条 會社ニテ創立証書ヲ更改スル權

第十三条 會社改稱ノ權

創立ノ定款

第十四条 創立定款ニ社則ヲ載スヘキヲ

第十五条 成規△表

第十六条 印紙印鑑及創立証書ノ効

總則

第十七条 創立証書及定款ノ登録法

第十八条 登録ノ効

第十九条 創立証書ノ寫本ヲ社員ニ與フヘキヲ

第二十条 會社類侶ノ名号ヲ禁ス

第二十一条 會社ニテ田地ヲ所有スル制限

第二回 社員ノ負責

資本分配ノ事

第二十二条 林金益金ノ品種

第二十三条 社員ノ親義

第二十四条 株式ノ譲リ渡シ

第二十五条 社員ノ登録

第二十六条 社員毎年ノ名簿

第二十七条 合格ノ記録ヲ怠リタル會社ノ罰科

第二十八条 資本ヲ「ストツク」ト為シタル公報

第二十九条 株金ヲ「ストツク」ニ為シタル効

第三十条 信任書ノ登録法

第三十一条 株式英「ストツク」ノ証券

第三十二条 書簿ノ點檢

第三十三條 書簿ヲ閉ルノ權

第三十四條 社負及資本増加ノ節之ヲ登録スル方法

第三十五條 記録ノ更改

第三十六條 簿書ノ改正ヲ登録スル方法

第三十七條 簿書ノ證據

社中ノ負責

第三十八條 社中舊負現負ノ責任

債主保護ノ條款

第三十九條 會社ノ本店

第四十條 本店設置ノ布告

第四十一條 有限會社名号ノ公告

第四十二條 名号ヲ公告セサルノ罰

第四十三條 質入レ等ノ罰

第四十四條 成規書式ノ公告

第四十五條 頭取支配人ノ姓名簿ヲ記録司ニ送達スル

法

第四十六條 會社ニテ頭取支配人ノ姓名簿ヲ留メ置カ

サルノ罰

第四十七條 約束手形及ヒ為換手形ノ事

第四十八條 社負七人以下ニテ社務ヲ取扱フ可ラサル

禁令

社負保護ノ條款

第四十九條 會社ノ常會

第五十條 特別ノ決議ヲ以テ成規ヲ更改スル權

第五十一條 特別議定ノ新義

第五十二條 集會規則ノ無キ時ノ仕法

第五十三條 特別ノ議定ノ記録法

第五十四條 特別議定ノ抄本

第五十五條 國外ニ於テ證券ヲ立ル事

第五十六條 検査役ニテ會社ノ事務ヲ検査スル事

第五十七條 憑拠ヲ以テ検査ヲ施スヘキ事情ヲ表示ス

ヘキ事

第五十八條 簿冊ノ検査

第五十九條 検査後ノ処分

第六十條 會社ニテ検査役ヲ命スルノ權

第六十一條 検査役ノ報告ヲ以テ公裁ノ憑証ト為ス

布達報告等

第六十二條 會社ニ布達ノ事

第六十三條 書翰ヲ以テ布達スル規則

第六十四條 會社ニテ召書ヲ受付ル事

司法公裁ノ事

第六十五條 罰金ノ取立

第六十六條 罰金ノ用方

第六十七條 會社ノ集議ハ公裁上ノ憑拠トスルヘキ

第六十八條 錫坑廳副長ノ權限

第六十九條 有限會社原告ト為リタル時ノ訴訟入費ノ

定

第七十條 會社ヨリ社員ヲ相手ト為シタル訴訟ノ申報

表式ノ更改

第七十一條 管商司ニテ成規中ノ表式ヲ更改シ得ヘキ

事

中裁人ノ事

第七十二條 會社ニテ其訴訟ヲ中裁人ニ頼ムヘキ權利
第七十三條 中裁人條例ノ活用法

篇四編

此條例ニ從ツテ會社ヲ閉鎖スル事

第七十四條 賦金人ノ釈義

第七十五條 賦金人ノ負責ノ品等

第七十六條 賦金人ノ死去

第七十七條 賦金人ノ身代限リ

第七十八條 婦女ニテ賦金人ト為リ其後婚ニシテ人ノ妻タル片ノ事

裁判廳ヨリ閉社ヲ命スル事

第七十九條 裁判廳ヨリ會社ニ閉店ヲ命スヘキ諸ノ事情

第八十條 會社其負債ヲ返済シ得サル者トセラレ、

第八十一條 裁判廳ノ釈義

第八十二條 閉社ノ書面ヲ上申スルニハ允テ願書体ヲ用ニヘキ事

第八十三條 裁判廳ノ權利

第八十四條 裁判廳ニテ會社ヲ閉ス起初

第八十五條 裁判廳ヨリ猶豫書ヲ出シタル事

第八十六條 裁判廳ニテ願書ヲ聽審スル手續

第八十七條 閉社ノ命令已ニ下ルノ後公事ヲ止ムル事

第八十八條 閉社ノ命令寫本一通ヲ記録官ニ送達スヘキ事

第八十九條 裁判廳ニテ裁判ヲ止メ得ヘキ權利

第九十條 保承有限ニシテ資本ヲ分株シタル會社ニ於

ケル命令ノ効用

第九十一条 裁判廳ハ債主或ハ賦金人ノ希望ヲ採用ス
ヘキ

引請役

第九十二条 引受役ヲ命スル事

第九十三条 引受役辞職免職補欠及給料

第九十四条 引受役ノ名目及職掌

第九十五条 引受役ノ權

第九十六条 引受役ノ臨機ノ裁置

第九十七条 引受役ニ代書人ヲ添ユル

裁判廳ノ常權

第九十八条 資産ヲ集メ之ヲ用ヒル事

第九十九条 賦金人ノ代理者ニ就キニノ条則

第一百条 裁判廳ニ於テ所有ヲ引渡サシムルノ權

第一百一条 裁判廳ニ於テ賦金人ニ其負債ノ還濟ヲ命ス
ルノ權

第一百二条 裁判廳ニ於テ出金ヲ命スルノ權

第一百三条 裁判廳ニ於テ會社ノ負債ヲ銀行ニ還濟セシ
ムルノ權

第一百四条 諸勘定ノ規則

第一百五条 賦金人ノ代理タル者出金ノ命ヲ奉セザル
ノ定則

第一百六条 命令ヲ以テ確實ノ證據トナス

第一百七条 裁判廳ハ債主ノ日限内ニ証拠ヲ立テサル者
ヲ除キ得ル

第一百八条 錫坑副長廳ニ於テ負債ノ證據ヲ立テシムル

所分順序

第百九条 裁判廳ハ賦金人等ノ推利ヲ定ムルヲ

第百十条 裁判廳ニ於テ出費ヲ命スルヲ

第百十一条 會社ノ分散

第百十二条 記録司ニテ會社分散ノ始末ヲ登録スルヲ

第百十三条 會社ノ分散ヲ報知セサル罰金

第百十四条 願書ノリスペンテンストナルヲ

第百十五条 裁判廳ニテ會社ノ私有物ヲ呀持スルトノ嫌疑アル人々ヲ呼出スヘキ權

第百十六条 錫坑副長ノ裁判廳ノ時格ノ例則

第百十七条 裁判廳ニテ干連人等ヲ吟味スルヲ

第百十八条 賦金人ニテ其所有物ヲ潜匿シ搬移シ又ハ

七命スル者ヲ捕スルノ權

第百十九条 裁判廳ノ重權

命令ノ施行及越訴ノ事

第百二十条 命令必行ノ權

第百二十一条 蘇格蘭ニ於テ賦金人ニ命シテ徵求ニ應

セシムルヲ

第百二十二条 英倫ニ於テ發出シタル命令ヲ愛蘭蘇格

蘭ニ於テ必行ス可キヲ

第百二十三条 他ノ裁判廳ノ命令ヲ取扱フ方法

第百二十四条 命令ニ逆フテ上控スルヲ

第百二十五条 審判ノ布達ニハ官負ノ信印ヲ取ルヘキ

第百二十六条 証拠ヲ取ル為メノ特任辨務人

第百二十七条 裁判廳蘇地ニ於テ審判ノ事

第百二十八条 愛護ノニ地其他ノ局部ニ於テハ一切誓
詞ヲ適當ナル裁判廳或ハ官負ノ目前ニ
テ為ス可キト

官命ニ倚ラスニテ會社ヲ閉鎖スルト

第百二十九条 自ラ解社ヲ為シ得ル諸事情

第百三十条 隨意閉社ノ端緒

第百三十一条 隨意解社ノ効

第百三十二条 隨意閉社ノ議定ヲ布達スル方法

第百三十三条 隨意解社ノ結局

第百三十四条 保承有限會社ヲ閉鎖スルニ付キ分株資
本ニ起ル効

第百三十五条 會社ノ權ニテ引受人ヲ命スルトヲ他ニ
委任スルト

第百三十六条 債主ヲ約束スル規定

第百三十七条 債主或ハ賦金人ニテ越訴スルノ權

第百三十八条 隨意閉社ノ時ニ當リテ引受人賦金人ヨ
リ裁判廳ニ請求スル權

第百三十九条 引受人ニテ尋常ノ集會ヲ催スノ權

第百四十条 引受人ノ欠負ヲ補フ權

第百四十一条 裁判廳ニテ跡引受人ヲ命スル權

第百四十二条 解社ノ結局ニ至レハ引受人共清算簿ヲ
捺シ可キト

第百四十三条 引受人ハ集會ノ次第ヲ記録司ニ届クニ
キト

第百四十四条 隨意閉社ノ費用ノト

第百四十五条 債主ノ權利ヲ守護スルト

第百四十六條 裁判廳ニテ解社ノ所置ラ撰ム可キ權
第百四十七條 裁判廳ハ請求ニ依リテ監視解散ヲ指令
スルノ權

第百四十八條 監視解社ノ願書

第百四十九條 裁判廳ハ債主等ノ願望ニ注意スヘキ
第百五十條 監視閉社ノ時ニ當リテ裁判廳ニテ引受人

補ヲ命ス可キ權

第百五十一條 監視分散ノ効

第百五十二條 時宜ニ依リテハ隨意ノ跡請人ヲ官命ノ

引受役ニ命ス可キ

追加ノ款條

第百五十三條 分散取掛リ後ノ所分等ハ無用ニ属スヘ

キ

第百五十四條 會社ノ諸書類ハ証拠トナルヘキ

第百五十五條 會社ノ書類計算及公文ヲ處分スル

第百五十六條 書類ノ檢査

第百五十七條 物件引受人ノ權

第百五十八條 諸ノ負債ヲ採用ス可キ

第百五十九條 閉社取纏方ノ見込ヲ許允ス可キ

第百六十條 和談ノ權

第百六十一條 會社ノ所有ヲ賣却スル手續料トシテ引

受人株式等ヲ收納スル權

第百六十二條 價ヲ定ムルノ法

第百六十三條 事宜ニ依リ一切ノ抵當免狀ヲ取消ス

第百六十四條 偏頗ノ所分

第百六十五條 裁判廳ヨリ過失アル支配人及ニ役員ニ

裁
省

對シテ償金ヲ定ム可キノ權

第百六十六條 書類ヲ偽詐質造スル罰

第百六十七條 官命ニ依リテ分散スル際ニ過失アル頭

取支配人等ノ追責

第百六十八條 随意分散ノ節過失アル支配人等ノ追責

第百六十九條 偽誓ノ罰

官廳諸規律ヲ設立スルノ權

第百七十條 英國法務長官規則ヲ設クルノ權

第百七十一條 蘇格蘭ノ裁判廳規則ヲ設クルノ權

第百七十二條 錫鑛司廳規則ヲ設クルノ權

第百七十三條 愛蘭法務長官規則ヲ設クルノ權

第五編

第百七十四條 記録館ノ組立

第六編

合本會社條例ノ趣意ニ從ツテ登録シタル諸會

社ニ此條例ヲ活用スル事

第百七十五條 合本會社條例ノ釈義

第百七十六條 合本會社ノ條例ニ從ツテ創立シタル諸

會社ニ此條例ヲ活用スル事

第百七十七條 合本會社條例ニ從ツテ登録シタル諸會

社ニ此條例ヲ活用スル事

第百七十八條 株式讓渡ノ法

第七編

第百七十九條 現存スル諸會社ノ登録規則

第百八十條 登録ニ得ヘキ諸會社

第百八十一條 合本會社ノ釈義

第百八十二条 為換會社ノ定則

第百八十三条 諸會社登錄ノ願書

第百八十四条 合本會社ニアラスレテ現存スル會社ヲ

登錄スル願

第百八十五条 現存スル會社株金ノ代リニ積金ノ高ヲ

登錄スル權利

第百八十六条 現存スル諸會社ニテ其差出書ヲ証明ス

ル

第百八十七条 記録官ニテ會社ノ事情ニ就キ其証拠ヲ

求ムルヲ得一キ

第百八十八条 為換會社ヲ有限責任トシテ登錄スル時

ニ其得意先等ニ差出スヘキ布達

第百八十九条 會社ノ体裁ニ依リテ手数料ヲ免除スル

丁

第百九十条 會社其名号ヲ更改スルノ權

第百九十一条 現存スル諸會社ノ登錄証書

第百九十二条 證書ヲ以テ條例ヲ遵奉シタル証拠トナ

スヘキ

第百九十三条 所有物ヲ會社ニ讓渡ス

第百九十四条 此條例ニ從フテ登錄スル時ハ其前ノ負

債ヲ妨ケサル

第百九十五条 在来ノ公事訴訟ヲ連続スル

第百九十六条 條例ニ從フテ登錄ヲ為スノ効

第百九十七条 裁判廳ニ於テ公裁ノ手續ヲ制限スル權

第百九十八条 會社ヲ閉鎖スルノ命令

第百八編

大 裁 省

登録セサル諸會社ニ此條例ヲ活用スルヲ

第百九十九条 無登録諸會社ノ閉店

第二百条 會社閉店ノ事アルニ及ビテ其賦金人ト為ル

ヘキ者ヲ見定ムルヲ

第二百一条 裁判廳ニ於テ公裁ヲ猶豫スル權

第二百二条 會社ヲ閉鎖スル命令ノ効

第二百三条 無登録ノ會社ノ定則

第二百四条 此編ノ定則ハ追加タルヲ

第九編

條例及假定則例ノ取消

第二百五五条 條例ノ取消

第二百六条 取消サスニテ残スヘキ个条

第二百七条 閉店ノ時ハ存在スル公裁ヲ取消サスニテ

之ヲ未結トナスヘキヲ

第二百八条 讓渡証券ヲ取消サ、ルヲ

第二百九条 嚴命ニ依リテ登録スル処ノ會社

第二百十条 ウイクトリア議定二十一年第十四卷第二

十八編ニ從ツテ登録セサル會社ノ罰

第二百十一条 會社其本店ヲ轉移スル為メニ一時ノ權

利

第二百十二条 免狀ヲ出スノ制限

商業會社及諸組合ヲ創立シ其規則ヲ立テ及之ヲ解

散スル事ノ條例

千八百六十二年八月七日創定

商業會社及其他諸組合ヲ創立シ其規則ヲ立テ及之ヲ解
散スル事ニ關係スルノ法律ヲ改正確定スルヲ便宜ナリト
議決セシニ依リテ爰ニ女王陛下ハ現今集會スル所ノ議事
院上下兩局ニ諮詢ヲ經其公諾ヲ得テ以テ左ノ條例ヲ創定
セリ

序文

第一条 條例畧稱

總テ此條例ヲ援引スル事アル時ハ之ヲ千八百六十二年創
定ノ會社條例ト稱ス可シ

第二条 條例ノ發始

此条例ハ嗣后直ニ施行スヘキ一時假定ノ条例ヲ除ク外ハ
千八百六十二年十月二日ニ到ラサレハ之ヲ實際ニ施行ス
ヘカラス因ツテ此年月日ヲ以テ此条例發行ノ始ト為ス可
シ

第三条 保險會社ノ釋義

此条例ノ趣意トシテ若シ今茲ニ會社アリ他ノ業務ヲ營ミ
兼テ保險ノ事ヲ為スアルニ於テハ乃チ保險會社ヲ以テ之
ヲ承認スヘシ

第四条 社負人數ノ制限

此条例發行ノ後十人以上合体シテ銀行ノ業ヲ營ム諸會社
或ハ組合仲間立ツテテラハ必ス此条例ノ趣意ニ基キテ創
立ノ記録ヲ請ヒ或ハ議院ノ他ノ条例或ハ内閣ノ稟書ヲ照
シテ之ヲ創立セサル可ラス

此条例發行後會社又ハ社負銘々ニ利益ヲ謀ル為メニ業務
ヲ營ム諸會社或ハ組合仲間ハ必ス此条例ノ趣意ニ基キテ
創立ノ記録ヲ請ヒ或ハ議院ノ他ノ条例或ハ内閣ノ稟書ヲ
照シテ之ヲ創立セラル可ラス但シ探錫律ニ屬シテ開鑛
ヲ營ム者ハ此限ニアラス

第五条 條例ノ分篇

此条例ヲ大別シテ九編ト為シ每編左ノ条件ヲ開列ス

第一編 此条例ニ則リテ諸會社ノ体裁ヲ定メ及之ヲ創

立スル手續ヲ叙ス

第二編 此条例ニ則リテ諸會社ノ資本及任責ノ比

例ヲ定ム

第三編 此条例ニ則リテ諸會社ノ事務ヲ取扱ヒ及ヒ之

ヲ支配スル事ヲ明カニス

第四編 此條例ニ則リテ諸會社ヲ鑿ス事ヲ揭ク

第五編 記録司ノ事

第六編 合本會社條例ニ隨テ登錄スル會社ニ此條例ヲ

活用スル事ヲ解ク

第七編 此條例ニ則リテ記録ヲ請フヲ許可セシ諸會

社ノ事

第八編 此條例ヲ他ノ登錄セサル會社ニ活用スル事

第九編 此條例ヲ廢止シ且フ一時ノ條例ヲ假定スル事

第一編 會社ノ体裁及其創立

創立證書

第六條 會社ヲ創立スル法

凡ソ七人以上ノ者組合フテ法則ニ戾ラサル業務ヲ營ント

欲スル時ハ各其姓名ヲ創立證書ニ記シ又ハ記録ヲ請フ

ニ就キテ此條例ノ手續ヲ履行スル時ハ組合會社ト為リテ

有限無限ノ責任ヲ有スヘシ

第七條 社負責任ノ制限法

此條例ニ隨テ創立スル會社々負ノ負責ハ創立證書ノ趣意

ニ基キテ其所持ノ株式ニテ入金未済ノ高ニ限リ或ハ解會

ノ時ニ當テ會社ヨリ徵收スヘキ延ノ金高ニ限ルヘシ

第八條 株式有限會社ノ創立證書

爾後株式有限會社ト稱スル者ニシテ其社負ノ負責ハ其

式ノ入金未済高ニ限リタル仕方ヲ以テ創立スル會社ハ創

立證書ヲ差出ス時ニ當リテ左ノ條件ヲ書裁スヘシ

第一 創立セシト欲スル處ノ會社ノ名稱其末句ニ有

限ノ二字ヲ加フヘシ

第二 右會社ノ設立ヲ登録スル本店ノ在ル地名
 第三 右會社ヲ創立スル目的
 第四 社負ノ負責ニ限制アルノ公報
 第五 資本ノ金高及會社ニテ此資本ヲ一定ノ株式ニ割
 リ之ヲ記録局ニ届出ント欲スル處ノ金額
 但此株式ノ分配ニ付左ノ規則ヲ遵守セサル可
 カラス
 第一 記名人即チ株主ハ必ス一株以上ヲ所有スルヲ
 要ス
 第二 創立證書中記名人即チ株主ノ姓名ノ上ニ其所
 有スル如ノ株數ヲ記スヘシ
 第九條 保承有限會社ノ創立證書
 爾后保証有限會社ト称スル者ニレテ其社負ノ負責ハ一定

ノ金額ニ限リ之ヲ解會ノ時ニ當リテ會社ノ公有ト為ス様
 ニ創立シタル會社ハ創立證書ヲ差出ス時ニ當リテ左ノ條
 件ヲ書載スヘシ
 第一 創立セント欲セル如ノ會社ノ名称其未句ニ有
 限ノ二字ヲ書加フヘシ
 第二 右會社ノ創立ヲ登録シタル本店ノ在ル地名
 第三 右會社ヲ創立シタル目的
 第四 各株主其社負タル間ハ勿論其退社ノ後未タ一年
 ヲ経スレテ若シ會社負債ノ為メニ鎖店ニ而メ右
 負債ハ其未タ退社セサル時ニ約定セシ者ナルハ
 ハ鎖店ニ就キテノ諸費用ト俱ニ其懸金ヲ辨納ス
 ヘキ公報
 第十條 無限會社ノ創立證書

爾后無限會社ト稱スル者ニシテ株主ノ負責ニ制限ノナキ
標ニ創立シタル會社ハ創立證書ヲ差出ストキニ左ノ条件
ヲ書載スヘシ

第一 創立セント欲スル処ノ會社ノ名稱

第二 右會社創立ノ事ヲ登記シタル本店ノ在ル地名

第三 會社ヲ創立シタル目的

第十一条 印紙印鑑及ニ創立證書ノ効

創立證書ハ自余ノ證券同様ニ印紙ヲ貼シ各株主ハ必ス一
人以上ノ証人ノ面前ニテ調印シ証人之ヲ檢証ニ檢証相濟
テ之ヲ記録ニ登ス可シ然ル上ハ全國中ニテ之ヲ充分ノ憑
証ト為シ會社ト其株主ヲ約束シテ其證書中當人ハ勿論其
継嗣引受人後見人ニ至ル迄會社条例ノ趣意ニ基キテ自ラ
記名調印シ右創立證書ノ約定ヲ確守スル者ト看做スヘシ

第十二条 會社ニテ創立證書ヲ更改スル權

株式有限ノ會社若シ普通ノ規則ニ依リ或ハ下条ニ書載ス
ル如ノ特別ノ議定ニ依リテ之ヲ変更改正セント要スル時
ハ其時宜ニ應シテ一定ノ新株ヲ發出シテ以テ資本ノ金高
ヲ増シ或ハ資本ノ分定法ヲ改メテ在來一株ノ金高ヲ更ニ
大株ニ為シ或ハ已ニ拂済ノ株金ヲ定資ト為ス等何レモ創
立證書ノ趣意ヲ改革スルトヲ得可シ其他ハ會社ノ名稱ヲ
改ムル外ハ決シテ改革ノコトアル可ラス

第十三条 會社改稱ノ權

此條例ニ基キテ創立シタル諸會社ハ下条ニ書載スル如ノ
手續ヲ以テ決定シタル特議ニ依リ且ツ管商司書記官ノ手
書ヲ証トシテ該司許可スルモノハ其名稱ヲ更改スルトツ
得ヘシ右様改名ニ及フキニハ記録吏ニ於テハ其新名旧名

歳首

ヲ登録シタル地方ノ公簿ニ登セ而シテ改称ノ免状ヲ發出
スヘシ尤モ此改称ニ就キテ決シテ會社ノ權利義務ヲ變シ
或ハ他ヨリ會社ニ對シ又ハ會社ヨリ他ニ對シテ起リ來ル
知ノ訴答ノ權利ヲ變ス可ラス總テ新名ノ會社ヲ著ルル舊
名ノ時ニ於ルト同様タルヘシ

創立ノ定款

第十四条 創立定款ニ社則ヲ載スヘキ事
株式有限會社ニ關シテ有限及ニ無限會社ヨリ創立證書ヲ差
出ス時ニハ之ニ添ユルニ創立定款ヲ以テスヘシ此定款中
ニハ即チ創立證書ニ記名セシ者ノ便宜ト決セシ但ノ會社
規則ヲ掲ケテ之ニ又々連印ヲ鈴スヘシ
右定款ハ其目ノ多少ニ隨テ之ヲ第一条第二条ト逐次ニ開
列シ惣テ成規第一条ノ部ノ体裁ヲ照スヘシ

有限無限 會社ヲ論セス凡ソ資本ヲ募リ之ヲ株式ニ分割
スル者ハ乃チ其登録ヲ乞ント欲スル知ノ資本金ノ高ラ書
シ若シ又其會社保証有限ニ屬シ或ハ否スニテ資本ヲ株式
ニ分割セザル者ハ乃チ登録ヲ乞ント欲スル但シ社員ノ數
ヲ載スヘシ此負數アルヲ以テ記録吏直ニ其押フヘキ手數
ノ多寡ヲ定メ得ルナリ

保証有限會社及ニ無限ナル者ニシテ資本ヲ株式ニ分割ス
ル者ハ各株主ニ於テ必ス一株以上ヲ所有シ而シテ創立証
書ノ姓名ノ上ニ其數ヲ記載スヘシ

第十五条 成規ニ表

株式有限會社ニシテ若シ創立證書ヲ差出スルニ創立定款
ヲ添ヘサル款或ハ其定款成規第一条ノ部ノ規則ニ戻ラサ
ル片ハ直ニ成規ノ規則ヲ以テ會社ノ規則ニ活用スヘキト

者做之恰モ之ヲ共創立定款ト為シテ之カ登録ヲ乞ヒシ者
トシテ取扱フヘシ

第十六条 印紙印鑑及ニ創立證書ノ効

創立定款ハ之ヲ印刷刊行シテ証券同様ニ印紙ヲ貼シ社負
タル者ハ何レモ一人以上ノ証人ノ面前ニテ之ニ調印シ証
人ノヲ見届ケ之ヲ記録ニ上スヘシ然ル以上ハ全國中ノ憑
扱ト為リ會社ト其社員ヲ約束シテ當人ハ勿論其継嗣引受
人後見人ニ至ル迄會社條例ノ趣意ニ基キテ記名調印シ右
定額中所載ノ諸規則ヲ遵守シ可キ者ト看做スヘシ
右會社ノ約定規則ニ基キテ社負ヨリ會社ニ納メヘキ一切
ノ金子ハ惣テ社負尋常ノ負債ト看做スヘシ

惣則

第十七条 創立証書及ニ定款ノ登録法

創立證書及ニ創立定款ハ之ヲ合本會社ノ記録司ニ差出ス
ヘシ記録司ハ之ヲ其司ノ記録ニ載セテ留メ置クヘシ其會
社資本金ヲ株式ニ分割シタル者ハ成規第一ノB表ニ所掲
ノ諸件ノ費用其時々管商司ヨリ示達スル如ク少許ノ規金
ヲ納ムヘシ若シ其會社資本金ヲ株式ニ分割セサル者ハ亦
成規第一ノC表ニ所掲ノ諸件ノ費用其時々管商司ヨリ示
達スル如ク少許ノ規金ヲ納ム可シ
此條例ノ趣意ニ基キテ記録司ニ收納スル如ク諸費ハ惣テ
之ヲ出納寮ニ納メ而シテ本國ノ消債金ニ組ミ込ムヘシ
第十八条 登録ノ効
記録司ニ於テ創立證書ヲ記録シ且ツ此條例或ハ社負ノ所
望ニ依リテ創立定款ヲモ一同記録シタル上ハ記官ノ手
書ヲ以テ右會社ハ已ニ創立ニ且制限アル者ナレハ其旨ヲ

モ證明シテ免狀ヲ與フヘシ

爰ニ於テ創立證書ノ記名人及ヒ其後絶ヘス社中ニ加入スル如ノ者ハ創立證書ニ載セタル名称ノ同体ト為リ惣テ會社ノ諸職務ヲ執行シ永世ノ継嗣ト為リ會社ノ公印ヲ以テ田地ヲモ所有スルヲ得ヘシ但シ其社負ヨリ會社解散ノ時ニ當テ持出スルノ金高ニハ必ス制限アルヲ要ス

記録官ニ於テ會社創立ノ時差出ス免狀ハ右會社已ニ此ノ條例ノ趣意ニ基キテ登録ノ手數ヲ履行シタル明証ト為スヘシ

第十九条 創立證書ノ寫本ヲ社負ニ存フヘキ事

創立證書ト創立定款ノ寫本ハ之ヲ社中ノ所望次第一部宛相渡シ其價トシテ一ニルリシテ或ハ會社ニテ定メタル如キテ金ヲ取ルヘシ萬一會社ニ於テ創立證書及創立定款

ノ寫本ヲ社負ニ配置スルヲ怠ル時ニハ一度毎ニ一磅以下ノ罰金ヲ課スヘシ

第二十条 會社類似ノ名号ヲ禁ス

諸會社ハ已ニ記録ヲ經テ創立シタル在来ノ會社ト其名称紛シキ者或ハ他日欺偽ノ嫌ヲ招クヘキ類似ノ名称ヲ以テ記録ヲ請フ事ヲ許サス但シ在来ノ會社已ニ解散ノ期ニ至リテ記録司ノ所要ニ應シテ敢テ差支ナキ旨ヲ陳明スルハ此例ニアラス若シ又々新規創立ノ會社其不注意等ニ依リテ舊會社ノ承諾ヲ得スレテ紛シキ名称或ハ他日欺偽ノ嫌ヲ招クヘキ類似ノ名称ヲ以テ記録ヲ請フ者アル時ハ記録司ノ允准ヲ經タル上ニテ其名称ヲ改ムヘシ改称ノ上ニテ記録官ハ新名ヲ旧名ノ如ニ填シ其旨ノ免狀ヲ出スヘシ改名ノ故ヲ以テ會社ノ權利義務ヲ動カシ又ハ法律上訴

答等ノ事ニ就キテ決シテ変更ヲ生スルヲ得ス新名ノ會社ハ惣テ旧名ノ會社ニ異ナルヲナシ

第二十一条 會社ニテ田地ヲ所有スル制限

學術技藝ヲ誘掖シ教法慈卹ヲ専務トシ其他此類ノ目的ヲ以テ創立シタル會社ニテ其趣意全ク利得ヲ謀ルニアラサル者ハ管商司ノ允准ヲ得テニエーケル以上ノ田地ヲ所有スヘシ

凡ソ管商司ハ各省御輔手印ノ免許狀ニ基キ相當ノ約定ヲ為シ相當ノ田地ヲ所有スヘキ權利ヲ付与スルヲ得ヘシ

第二回 社負ノ負責

資本分配ノ事

第二十二條 株金益金ノ品種

此條例ニ基キタル諸會社々負ノ株式又ハ益金ハ之ヲ動産ト看做シ會社ノ規則ニ隨フテ授受賣買ハ勝手タルヘシ且又資本ヲ株式ニ分割シタル者ハ其株毎ニ番号ヲ記スヘシ

第二十三條 社負ノ釈義

此條例ニ基キタル諸會社ノ創立証書ニ記名シタル者ハ即チ其連署シタル如ク証書ノ會社ノ社負タル事ヲ約定シタル者ト看做シ之ヲ記録スル時ニハ已ニ其社負ト称スヘシ且又他人ト雖モ此條例ニ基キタル諸會社ノ社負タル事ヲ約諾シ而シ其姓名ヲ記録スルトキハ直ニ其會社ノ社負ト為ルヘシ

第二十四條 株式ノ譲リ渡シ

此條例ニ基キタル諸會社ノ社負死亡セシニ就キ其株金又ハ益金ヲ譲リ渡ス時ハ其代理人假令社負中ノ一人タラスト雖モ其讓渡証書取扱中ハ社負同様ニ着做セラ故障アルヘカラス

第二十五條 社負ノ登録

此條例ニ基キタル諸會社ハ何レモ一冊以上ノ株式記録簿ヲ作りテ社負ノ姓名ヲ列載シ其上ニ左ノ明細ノ件ヨリ附スヘシ

第一 各社負ノ姓名住所職業及ヒ若シ身會社資本ヲ分割スル者ナレハ各人所有ノ株數及ヒ其番号其株氏トシテ已ニ拂ヒ或ハ拂フテ約定セタル金高

第二 各人入社記名ノ手數相濟テ社負ト為リタル年月日

第三 社中ヲ離レタル年月日

此條款ノ趣ヲ違背スル処ノ會社ハ其退去ヲ改メサル日數ニ應シテ一日五磅ニ過キサル罰金ヲ課セラルヘシ且又頭取或ハ支配人ニ於テ其情ヲ知リナカラ此違背ノ事ヲ許ス者モ亦タ同様ノ罰ヲ受クヘシ

第二十六條 社負毎年ノ名簿

此條例ニ基キ資本ヲ株式ニ分割スル如ノ諸會社ハ毎年一度第一ノ惣集會ノ後十四日目ニ社負惣体ノ姓名録ヲ作ルヘシ此姓名録ハ少クモ一年一度之ヲ差出シ且ツ各人ノ姓名住所職業及株數ヲ記シ更ニ左ノ明細書ヲ附ス

第一 會社資本ノ惣高及之ヲ分割シタル株數

第二 會社開業ノ日ヨリ其時迄ニ發行シタル株數

第三 各株ノ出金高

第四 入金已収ノ惣高

第五 入金未収ノ惣高

第六 没収シタル株式ノ總高

第七 前年ノ姓名録ヲ製シタル以上退社セシ者ノ姓名住所職業及ニ其所有セシ株數

右姓名明細録ハ記録簿ノ別部ニ置キ而シテ集會ヨリ十日目ノ後七日ノ間ニ之ヲ編成シ其寫本ヲ合本會社ノ記録司ニ差出スヘシ

第二十七條 合格ノ記録ヲ怠リタル會社ノ罰科

此條例ニ從テ創立シタル資本分割會社若シ先ニ掲載セシ手續ヲ履行セス社員ノ姓名簿及概算牒ヲ記録司ニ差出

スヲ等閑ニスル時ハ則其怠慢中一日毎ニ五磅ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ且會社ノ頭取及支配人タル者此等閑ヲ知ツテ咎メス故意ニ之ヲ許ス時ハ亦同様ノ過料ヲ出サシムヘシ

第二十八條 資本ヲ「ストック」為シタル公報

此條例ニ隨ツテ創立シタル資本分割ノ會社其資本ヲ集合シテ在未ノ株金ヨリ更ニ大高ノ株金ニ分割シ或ハ資本ノ若干ヲ「ストック」ト為ス時ハ其顛末ヲ明細ニシ合本會社ノ記録司迄届書ヲ達ス可シ

第二十九條 株金ヲ「ストック」ニ為シタル効

此條例ニ隨テ創立シタル會社其資本ノ若干ヲ分割シテ「ストック」ト為シ之ヲ記録司ニ報知スルトキハ則其株式ハ全ク變シテ「ストック」ト為ルカ故ニ此條例中株式ニ屬シタル

条款ハ右「スト」ノ高ニハ通用セサルナリ之ニ依リテ會社ニ留置クヘキ社負ノ名簿及ニ記録司ニ達トヘキ社負ノ目錄ニハ右「スト」ノ變ニタル株數ノ總計ヲ算シ之ヲ「スト」トワクト為シテ記載シ株式ト混同セシムヘカラス惣數ヲ載ス可シ

第三十條 信任書ノ登録法

信任書ハ之ヲ明説スル者ト暗ニ其意ヲ含ム者トニ拘ラス此條例ニ隨ツテ創立シタル會社ノ記録ニモ留置ヘカラス又記録司ニモ登録スヘカラス

第三十一條 株式及「スト」ノ証券

社負所有ノ株數又ハ「スト」ノ細記スル者ニテ會社ノ公印アル証券、其株式「スト」ヲ等全ク其ノ社負ニ於テ所有ノ權利ヲ表スル確証タルヘシ

第三十二條 書簿ノ點檢

此書類ハ會社開業ノ日ヨリ之ヲ登録シタル本店ノ書記役ニ於テ保在シ而シテ下ニ記載スルカ如ク營業ヲ止メタル時間ニアラサル以上ハ株主ノ衆會ニ於テ又極メタル約束ニ隨テ毎日ニ時以上社負ハ勿論債主等ノ所望次第ニ之ヲ縦視檢閲セシムヘシ尤モ株主ニアラサル者ニハ一檢視毎ニ一「スト」リニシテ或ハ會社ニテ取極メタル見料ヲ出サシムヘシ但シ會社ノ免許ヲ得シ者ハ此ノ限ニアラス又社負或ハ其他ノ人ヨリ右書物ノ全部或ハ其中ノ一部又ハ社負ノ姓名録及概算帳等ノ寫本ヲ得ント欲スルトキハ抄本ノ百語毎ニ「六ペニ」スノ謝銀ヲ以テ之ヲ聽スヘシ會社若シ此檢視ト騰寫ヲ拒ム時ハ一度毎ニ二磅以下ノ過料ヲ出サシメ此ノ拒否ヲ改メサル間ハ毎日ニ「ポイント」宛ヲ追加スヘシ若

歳首

シ會社ノ頭取及支配人タル者有心故造セシ時ニモ同様ノ過料ヲ出シシメ英倫及ヒ愛蘭ニ於テ記載セシタル會社ニメ公會ノ法官或ハ錫工司副長ノ管理ニ屬スル者ハ以上ノ罰格外ニ其命令次第異義ナク綴視ヲ得ルヲアリトス

第三十三條 書簿ヲ閱ルノ權

此條例ニ隨テ創立シタル會社若シ其登録シタル地方ノ新聞紙ヲ以テ休業ノ稟告ヲ為ス時ハ其時間一ケ年内ニ全ク三十日ヨリ多カラサルニ於テハ何時ニ限ラス社中ノ書類ヲ閱キテ綴視ヲ聽キルヲ得ヘシ

第三十四條 社負及ヒ資本増加ノ節之ヲ登録スル方法

資本分割ノ會社其株金ヲストツクニ為シタル有無ニ係ハラス資本ノ高ヲ増加セント欲スル者ハ願ヒ出テ、既ニ許可アラハ其日ヨリ十五日中ニ其趣ヲ記録司ニ申達ス可シ

且又資本ヲ持タサル會社ニ於テ社負ノ數ヲ増加セント欲ルモ前同様ノ手續ヲ為スヘシ然ルトキハ記録司ニ於テ資本ト社負トノ増加シタル總數ヲ直ニニ記録スヘシ若シ會社ニ於テ此登録ヲ怠リテ前掲ノ時限ヲ過トキハ其怠慢中一日五磅ヨリ多カラサル過料タルヘシ且ツ知りテ答メス或故意ニ之ヲ許ス所ノ頭取及ヒ支配人モ同様ノ過料ヲ拂ハシムヘシ

第三十五條 記録ノ更改

此條例ニ隨フテ創立シタル會社ニ於テ若シ充分ノ事故ナクシテ社員ノ姓名ヲ社中ノ記録ヨリ除名ニ或ハ社外ノ人ヲ書入レ或ハ社中ヲ辞退セシ者ノ事情等ヲ記録スル事ヲ怠リ或ハ延列スル時ハ之ニ依リテ枉害ヲ蒙ル如ノ當人或ハ其會社ニ於テ(英倫愛蘭ニ於テ登録シタル會社ナレハ)女

主陛下ノ公義最上ノ廳ニ願請シ(錫工局管下ノ會社ナレハ)其長副官ニ請求シ又(蘓格蘭ニテ登録シタル會社ナレハ)其地方ノ衆議廳ニ明細書ヲ以テ請求シ或ハ其廳ヨリ指令ヲ得ル等ノ別法ニ依リテ株帳書記ノ不都合ヲ改正スヘシ裁判廳ハ其事情ヲ糾シテ願人ノ請求ヲ引受ケ又ハ之ヲ否ミ且ツ右一件ノ費用ヲ拂ハシメ又ハ然ラサル等其都合ニ任スヘシ又訴訟裁判官ノ意見ニ由リテハ此書記ノ改正ヲ指令シ而メ此願請等ノ諸費用及ヒ枉害ヲ蒙リタル者ノ損失ヲモ會社ニ命シテ弁償セシムヘシ裁判廳ハ此會社ノ株帳ノ出入ニ依リテ其姓名ヲ改正ス可キ案件ニ類侶セル訴訟ヲモ裁定シテ人民ノ權利ヲ保護ス可シ其時ハ其訴訟二人以上ノ社員ノ間或ハ又社負ト會社ノ間ニ生スルニ拘ラス何レモ原告ノ權利ヲ保護スヘシ且ツ若シ通法ノ裁判廳ニ

属スル者ナルトキハ直ニ之ヲ審判シテ其疑問ヲ解キ而メ千八百五十四年故事法取扱ノ條例ヲ照シテ越訴及ヒ覆審ノ免狀ヲ付ス可シ

第三十六條 簿書ノ改正ヲ登録スル方法

通常株帳ヲ改正スヘキ命令ヲ得テ其會社ヨリ姓名録ヲ記録司ニ送達スルヲ要用ナルトキハ會社ニテ裁判廳ノ命ヲ奉ヒテ右ノ如ク改正済ノ証書ヲ記録司ニ差出スヘシ

第三十七條 簿書ノ證據

社負ノ名簿ハ此條例ニ由リテ其中ニ記入スヘキ諸件ノ為メニ判然タル証拠タル可シ

○社中ノ負責

第三十八條 社中旧負責現負責ノ責任

歳首

此條例ニ隨ツテ創立シタル會社若シ解散ノ事アルニ於テハ其社員ハ現負旧員ニ拘ハラズ會社ノ責任負債及ニ解散ノ費用ヲ弁償セシカ為メニ充分ナル金高ヲ會社ニ納メラ其徵賦ヲ免カルヘカラス右懸金ニ就キテハ左ノ制限アルヲ要ス

第一 社員ニテ解散ノ事ノ起ラザル前滿一ケ年ニ退社セシ者ハ弁償ノ徵賦ヲ受クヘカラス

第二 社員ニテ已ニ退社ノ後ニ會社ニテ引負フタル負債及責任ハ徵賦ヲ免ル可シ

第三 此條例ニ隨ツテ現存ノ社員ヨリ弁償スヘキ賦金不足シテ實ニ其責ヲ塞キ難キヲ裁判廳ニ於テ確知スルニアラサレハ退社シタル者會社ノ負債ヲ徵賦スヘカラス

第四 株式有限會社ニ於テ舊員現員ニ拘ラス弁償ノ賦金ヲ納メシムルトキハ其高株式入金ノ未濟ノ數ヲ超ユヘカラス

第五 保承有限會社ニ於テハ社員ヨリ創立証書ニ於テ約定シタル營業資本金ノ外ヲ弁償セシムヘカラス

第六 此條例ノ條款アルニヨリテ株主ニテ保任シタル保檢証書及ニ他ノ約書ノ契約ヲ廢消スヘカラス且ツ會社ノ積金而已ヲ以テ弁償スヘキ右負債ノ契約ヲ廢消スヘカラス

第七 分配金利益等會社ヨリ社員ニ割渡スヘキ時ニ若シ社外ノ債主ニ於テ此社員ニ對シテ之ヲ爭ヒ議論作ルニ於テハ會社之ヲ右社員ニ返済スヘキ負

裁
省

債ト者做スヘカラス但シ社員各自ノ掛金権利ヲ
調整スルトキハ此金高ヲ計算スベシ

第三編 此条例ニ隨テ創立シタル諸會社ノ事務取扱
方

○債主保護ノ条款

第三十九条 會社ノ本店

此条例ニ隨テ創立シタル會社ハ必ス本店ヲ置キ此如ニ於
テ文書布達等ノ往復贈答ヲ任スヘシ若シ會社ニ於テ此事
ヲ急リテ業務ヲ取扱フトキハ其急リタル日毎ニ五磅ヨリ
多カラサル過料ヲ課スヘシ

第四十条 本店設置ノ布告

本店設置ノ地名及其遷移等ノ公報ヲ記録司ニ申達シテ同
司ノ記録ニ載スヘシ此公報ヲ為ササル間ハ本店ヲ設置ス

ルニ就キ此条例ノ条款ヲ遵奉セサルノ會社ト看做スヘ
シ

第四十一条 有限會社名号ノ公告

都テ有限會社ハ其株式或ハ保承ニ属スルニ拘ラス其店ノ
外面ニテ容易ニ着目スヘキ位置ニ明了ナル文字ヲ以テ其
社号ニ顔シ招牌ヲ掲クヘシ而シテ會社ノ公印ニハ明了ナル
文字記号ヲ彫刻シ之ヲ一切ノ公文券書等ノ書類ニ印刷ス
ヘシ

第四十二条 名号ヲ公告セサルノ罰

此条例ニ隨テ創立シタル有限會社若シ前条ノ趣意ヲ奉セ
ズシテ其社号ヲ揭示セサルトキハ一日毎ニ五磅ヨリ多ク
ラサキ罰金ヲ責ム可シ若シ又タ頭取支配人ノ於テ之ヲ知
リテ答メス又ハ故意ニ之ヲ許シ置クトキハ同様ノ罰金ヲ

責若シ又會社ノ役員或ハ頭取支配人或ハ會社ノ代理人タル者前条ノ趣意ニ依リタル社印社号ヲ用ヒルハ用ヒルメ或ハ之ヲ報告契約ノ書類ニ施シ又ハ施シタル者各五拾磅ノ過料トス其上右条例ニ依リテ偽用シタル(為替手形)約条書(貨物賣附書)(金貨不附)等ノ金高ヲ會社ヨリ拂ラハサルニ於テハ其持主ヨリ之ヲ弁償セサルヘカラス

第四十三条 質入レ事

此条例ニ隨ツテ創立シタル有限會社ハ其所有物ノ質入寄托等會社ノ所有物ニ關係シタルヲ記載スル為メニ帳簿ヲ製シ置キ右等ノアル度毎ニ其物品ノ負數種類及質入レ先又ハ寄托先キノ姓名ヲ畧掲シテ其帳面ニ載スヘシ若シ其帳簿ヲ製スルヲ無ク會社ノ所有物ヲ質入レ寄托スルニ於テハ故意ニ之ヲ許容スル所ノ頭取支配人及會社ノ役

員ニ各五拾磅ヨリ多カラサル過料ヲ課スヘシ

一此条款ニ所掲ノ質入寄托ノ帳簿ハ何時ニテモ相當ノ時間ナレハ債主或ハ社員ノ所望ニ應ニテ之ヲ點檢セシムヘシ若シ此ノ點檢ヲ肯セサル片ハ之ヲ拒ミタル會社ノ役員及シキノヲ知リ咎メス又ハ故意ニ之ヲ許ス所ノ頭取支配人ニハ各五磅ヨリ多カラサル過料ヲ納メシメ其ノ之ヲ改メサル間ハ毎日ニ磅ヨリ多カラサル過料タルヘシ若シ英倫愛蘭ニ於テ登録シタル諸會社ナルカ又ハ錫工司副長管下ノ諸會社ナル時ハ此過料ノ上ニ更ニ公會ノ法官及シ副長官ノ命令ヲ以テ直ニ帳簿ノ點檢ヲ命ス可シ

第四十四条 成規書式ノ公告

此条例ニ隨ツテ創立シタル有限為換會社及保險會社其寄托引受救卹ノ諸會社等ハ其業務ヲ始ムル前及其營業ノ

間ハ毎年第二月初メノ月曜日ト第八月初メノ月曜日トニ
於テ第一成規中B号ノ格式或ハ成丈ケ之ニ適合シタル体
裁ヲ以テ報告書ヲ作ルヘシ此報告書ノ抄本ハ會社ノ本店
及會社ノ事務ヲ取扱フ如ノ各支店ニテ容易ニ着目スヘキ
場所ニ高掲スヘシ若シ此款条ニ戻ルトキハ之ヲ改メサル
間一日五磅ヨリ多カラサル過料ヲ會社ニ課シ且ツ之ヲ知
リテ咎メス又ハ之ヲ黙許シタル頭取支配人モ同様ノ罰格
ニ処スヘシ

一此条款所掲ノ社員及口債主ハ六「ベ」ニ「ス」ヨリ多カラサル
價ヲ以テ右報告書一本ヲ得可シ

第四十五条 頭取支配人ノ姓名簿ヲ記録司ニ送達スル法
此條例ニ隨ツテ創立シ資本ヲ分割セサル処ノ會社ハ其頭
取支配人ノ姓名住所職業ノ明細書ヲ帳簿ニ載セテ本店ニ

保存シ其寫ヲ合本會社ノ記録司ニ申達ス可シ且又頭取支
配人ノ進退黜陟等モ時々同司ニ報告ス可シ

第四十六条 會社ニテ頭取支配人ノ姓名簿ヲ留メ置カサ
ルノ罰

此條例ニ隨テ創立シ資本ヲ分割セサル処ノ會社ニ於テ前
条ノ如ク其頭取支配人ノ明細書ヲ留メ置カス或ハ記録司
ニ其寫ヲ送ラス或ハ其頭取支配人ノ進退黜陟等ヲ記録司
ニ報告セサルカ如キ過失アル時ハ其怠慢シタル日限中一
日五磅ヨリ多カラサル過料ヲ會社ニ課スヘシ且ツ之ヲ知
リテ咎メス又ハ之ヲ黙許シタル頭取支配人モ同様ノ罰ニ
処スヘシ

第四十七条 約束手形及口為換手形ノ事
此條例ニ隨ツテ創立シタル會社ノ名代人タル者會社ノ指

令ニ依リテ會社ノ名称ヲ以テ約束手形及為換手形ヲ製造
シ之ヲ受付ケ之カ裡判ヲ為スキハ其所持都會社ノ施行
セル者ト見做スヘシ

第四十八條 社員七人以下ニテ社務ヲ取扱フ可ラサル禁
令

此條例ニ隨ツテ創立シタル會社ノ社員七人ヨリ以下ニ減
少セシ後ニモ尚ホ六ヶ月ノ間其業務ヲ取扱フニ於テハ右
減負シタル六ヶ月ノ間事務ニ預リタル社員且ツ此事情ヲ
確知シタル者ハ此時間中ニ引負タル一切ノ負債ヲ弁償ス
ル責ニ任スヘシ若シ此等ノ事ニ就キ訴訟出来スルトキハ
右人員ノ引受ト為リ他ニ干連スルコトナカルベシ

○社員保護ノ條款

第四十九條 會社ノ常會

此條例ニ隨ツテ創立シタル會社ノ常會ハ少クモ毎年一度
ニ降ル可ラス

第五十條 特別ノ決議ヲ以テ成規ヲ更改スル權

此條例ニ隨テ創立シタル會社ハ此條例ノ各條及ビ創立証
書ノ約束ニ基キテ臨時ニ社員ヲ招集シ下條ノ仕法ヲ以テ
特別ノ決議ヲ為シ第一成規ノ内A号ノ表式或ハ創立証書
中ノ社則ノ全部又ハ一部ヲ改正シ或ハ之ヲ増加シ或ハ刑
除シテ新法ヲ立テ得ヘシ此特別ノ議定ニ依リテ改正シタ
ル規則ハ恰モ創立証中ニ記載セシモノ、如ク正當確實ノ
社則ト看做ス可シ且ツ此後特別ノ議定ヲ以テ改正変更ス
ル如ク者ハ何レモ同様ノ看ヲ爲サ、ル可ラス

第五十一條 特別議定ノ釈義

此條例ニ隨ツテ創立シタル會社ノ議定ハ預ニ其集會ノ

裁省

趣意ヲ明ラカニ公告シタル所ノ常會ニ於テ社則ヲ照シテ
社負本人或ハ代人社代理人ヲ許スヲ以テ發言シ社中ノ惣負
四分ノ三ヨリ少カラサル輿論ヲ以テ之ヲ決定シ其次ノ集
會即チ此議ヲ初メテ起セシ初會ノ日ヨリ十四日乃至一ヶ
月ノ間ニ催シ第二次ノ常會ニ於テ決定スル者ヲ特別ノ議
定ト看做スヘシ
一此條款ノ集會ニ於テハ少クモ五人以上ヨリ投票ノ一ヲ
請求スルニアラサレハ議長ノ明言ヲ以テ其案件ヲ確定シ
タル徴ト為シ別ニ議論ノ異同可否ノ多少ヲ比較スルヲ要
セス
一會社ノ規則ニ依リテ此條款ニ基キテ集會ヲ催シ公告ヲ
為スルハ其集會ハ正當ニ之ヲ報行シ其公告ハ正シク之ヲ
為セシ者ト看做スヘシ是此條ノ趣意ナリ

一若シ又投票ノ法ヲ以テ案件ヲ議定スル時ハ此條款ニ隨
ヒ且ツ社則ニ依リテ社負ノ發言スヘキ票數ノ多寡ヲ算シ
其輿論ニ決スルヲ勿論ナリ

第五十二條 集會規則ノ無キ時ノ仕法

若シ社負ノ發言ノ數ヲ制限スル規則ヲ欠クハ乃チ社負
一名ニ一個ノ發言ヲ有スヘシ又常會ヲ召集スル規則ヲ欠
クハ第一成規A号ノ表ヲ照シテ七日以前ニ其旨ヲ社負
ニ報知シテ之ヲ招集スヘシ又集會ヲ招集スヘキ主人ニ就
キ規則ナキ時ハ社負五人以上ニテ之ヲ招集シテ可ナリ又
何人ヲ以テ議長ト為ス可キ規則ヲ欠クハ出席ノ社員ヨ
リ撰任シテ以テ此職ニ充スヘシ

第五十三條 特別ノ議定ノ記録法

此條例ニ隨フテ創立シタル會社ハ其特別議定ノ抄本ヲ上

本ノ上之ヲ合本會社ノ記録司ニ送達シ同司ノ記録ニ留メ置ク可シ若シ議案決定ノ日ヨリ十五日ノ内未タ此抄本ヲ送達セサルキハ右十五日ヨリ以後此抄本ヲ送達セサル間毎日ニ磅ヨリ多カラサル過料ヲ拂ハシムベシ且ツ之ヲ知リテ答メヌ或ハ之ヲ黙許スル所ノ頭取支配人モ同様罰ニ処スヘシ

第五十四条 特別議定ノ抄本

會社定款ノ登録ヲ經タル後現ニ其營業中ニ決定セシ知ノ特別議定ノ抄本ハ之ヲ其後ニ発行スル処ノ會社定款ノ抄本中ニ編入追加スヘシ若シ又右會社定款ノ登録未タ調ハサル時ノ特別議定ノ抄本ハ一「」ルリニシ或ハ會社ノ指令ニテ是ヨリ下直ナル價金ヲ以テ之ヲ社員ニ賣渡スヘシ若シ會社ニテ此條款ニ戻リテ之ヲ執行セサル時ハ各抄本ニ

付一磅ヨリ多カラサル過料ヲ課シ且ツ之ヲ知リテ答メヌ又ハ黙計スル所ノ頭取支配人モ同様ノ罰ニ処スヘシ

第五十五条 國外ニ於テ証券ヲ立ル事

此條例ニ隨テ創立シタル會社ハ尋常或ハ特殊ノ事情ニ就キテ其社ノ公印ヲ鈐シタル委任狀ヲ其代人ニ付与シ英國外何レノ地ニ於テモ一切証書ヲ作ル可キ權ヲ与フルヲ得ル者トス而メ會社ノ為ニ右代人ノ調印セル証書ハ乃チ此會社ヲ總括シテ其公印ヲ押シタル証書ト同様ノ効用ヲ有スヘシ

第五十六条 検査役ニテ會社ノ事務ヲ検査スル事

右件ノ請求アルニ於テハ管商司ヨリ其職務ニ適スヘキ検査役一名以上ヲ命ジ以テ該司ノ指令スル手續ニ從ツテ會社ノ事務ヲ検査セシメテ之ヲ本司ニ報知セシムヘシ其請

歳省

末ハ

第一 資本分割ノ為換會社ノ場合ニ於テハ惣株數三分

一以上ヲ所有スル社負等ノ請願

第二 他ノ資本分割ノ會社ノ場合ニ於テハ惣株數五分

一以上ヲ有スル社負等ノ請願

第三 資本分割セサル會社ノ場合ニ於テハ會社ノ姓名

簿ニ記名シタル社負總人數五分一以上ノ請願

第五十七條 憑拠ヲ以テ検査ヲ施スヘキ事情ヲ表示スヘ

キ事

管商司ハ右願人等ノ此検査ヲ所望スルハ正當ノ条理アリ

且ツ此検査ヲ施スハ決シテ其惡意ニ出サル趣ノ憑拠ヲ差

出サシムヘシ且ツ管商司ニ於テハ右検査役ヲ命スル前ニ

願人等ヲ以テ検査一件ニ就キ野生ノ費用ヲ弁正スルヲ

請合セシムヘシ

第五十八條 簿冊ノ検査

凡ソ會社ノ役負及ヒ手代人タル者ハ其権限内ノ簿冊及書

類ヲ盡シテ之ヲ検査役ノ檢閲ニ供スルヲ以テ其義務ト為

スヘシ検査役ハ會社ノ事務ニ関ル如ノ役負及手代人ヲ誓詞

ヲ為サシメテ之ヲ検査シ隨ツテ此誓詞ヲ執行スル権アル

ヘシ若シ右役員或ハ手代人ニテ指令ノ簿冊或ハ書類ヲ差

出スヲ拒ミ或ハ會社ノ事務ニ関ル如ノ疑問ヲ肯シ答ヘ

サル者アルトキハ一罪毎ニ五磅ヨリ多カラサル罰金ヲ納

メシムヘシ

第五十九條 検査後ノ處分

検査既ニ終ルハ検査役其意見ヲ管商司ニ報告スヘシ管

商司ハ此報告ヲ筆述シ或ハ出板シテ其一部ヲ會社ノ本店

ニ送リ又一部ハ検査ヲ施スルヲ願請シタル社員等ノ所望ニ任セテ社負一同或ハ其一名以上ニ下ケ渡スヘシ前件検査ノ出費及ヒ之ニ関係シテ所生ノ雜用ハ尽ク検査役ノ施行ヲ願請セシ処ノ社員等ニ弁償セシムヘシ但シ管商司ニ於テ會社ノ資産ヲ以テ之ヲ弁償セシムヘキ指令アルトキハ此限ニテラス

第六十条 會社ニテ検査役ヲ命スルノ權

此條例ニ隨ツテ創立シタル會社ハ其義務ノ如何ヲ検査セシカ為メニ特別ノ議定ニ依テ自ラ検査役ヲ命スルヲ得ヘシ此ノ如ク命シタル検査役ハ其權利義務何レモ管商司ニ於テ命スル処ノ検査役ニ異ナルヲ加カルヘシ只其異ナル所ハ右検査ノ報告ヲ管商司ニ為サスレテ之ヲ常會ニ於テ指令セル手續ニ隨ツテ其差圖ノ人員ニ為スヘキニ在リ

若シ又會社ノ役員及手代人ノ内ニ此検査役ニ差出スヘキ簿冊或ハ書類ヲ拒ミテ出サス或ハ疑問ノ条件ニ應答セサル者アルニ於テハ一罪毎ニ五磅ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシムヘシ

第六十一条 検査役ノ報告ヲ以テ公裁ノ憑証ト為スル此條例ニ隨ツテ所命ノ検査役ノ報告書ニ右検査ヲ受タル會社ニテ之ヲ受付ケ其公印ヲ鈐シタル以上ハ右報告書中ノ事情都テ検査役ノ意見ヲ憑証トシテ之ヲ司法上ノ公裁ニ採用スヘシ

○布達報告等

第六十二条 會社ニ布達ノ事

凡テ會社ニ通達スヘキ徵招申達指令等書類ハ之ヲ本店ニ差出し或ハ貨錢濟ノ書翰ヲ以テ郵便ニ托シテ本店ニ遞送

スヘシ

第六十三條 書翰ヲ以テ布達スル規則

凡テ郵便ニ托シテ會社ニ遞送スヘキ公書類ハ右遞送ノ定限内ニテ相達スヘキ時間ヲ量リテ差出スヘシ而シテ右公書類ノ正ニ達セシヤ否ノ証拠ハ其名宛ニ相達トキト共書狀ノ貸錢簿トヲ以テ充分ナリトス

第六十四條 會社ニテ召書ヲ受付ル事

凡テ會社ノ受付ヲ要スル所ノ徵召布達指令書等ハ必ス會社ノ頭取書記或ハ委任ノ役員ノ調印ヲ取リ置クヘシ尤モ其社印ヲ鈴スルニ及ハス而シテ此召書等ハ之ヲ筆書スルモ出版スルモ亦筆書出板相半スルモ苦シカラサレヘシ

○司法公裁ノ事

第六十五條 罰金ノ取立

凡ソ此條例ニ隨ツテ罰金ヲ取立ツヘキ罪科ハ英倫ニ於テハ「ウイクトリア」女主人ノ世第十一年及十二年ノ會議ニテ創設セル議定書ノ第四十三章或ハ其改定律ニ從ヒ畧手數ヲ以テ裁判役ニ員以上ノ前ニ於テ之ヲ追徵處分スヘシ右ノ議定ハ英國内ニ於テ裁判廳閉鎖ノ時ニ當リテ下等裁判役ノ審判及ヒ其職務ヲ遂ケ易カラシムル為メノ者ト題セリ且ツ又蘇格蘭ニ於テハ「ウイクトリア」女主人ノ世第十七年及ヒ十八年會議ニテ創設シタル議定律第四章或ハ此ノ議定律ニ觸レテ其科重罪輕罪ニ至ラサレトキハ其改定律ニ從ツテ畧手數ヲ以テ裁判役ニ員以上或ハ地方宰官ノ前ニ於テ追徵處分スヘシ右ノ議定律ハ改定高船律ト稱スヘシ愛

蘭ニ於テハ「ウイクトリ」女主ノ世第十四年及ヒ十五年ノ會議ニテ創設シタル議定律第九十三章或ハ其改定セル者ニ從ツテ署名手數ヲ以テ裁判役ニ員以上或ハ地方宰官ノ前ニ於テ追徴所分スヘシ右議定律ハ愛蘭ニ於テ其地方ノ會議ノ創設セル者ニシテ下等裁判廳ノ所分及ヒ裁判役ノ職務ヲ制定シタル條例ヲ改定セシ者ト稱スヘシ

第六十六條 罰金ノ用方

此條例ニ從ツテ裁判役或ハ地方ノ宰官罰金ヲ追徴スルトキハ其金ノ惣高又ハ一部ヲ以テ裁判入費ニ充テ或ハ此事ヲ桑費セシ者又ハ原告人ノ賞典ニ用ユヘキ指令ヲ為シ得ヘシ其金ハ凡テ大藏省ノ指令スル手續ニ從ツテ女主之ヲ收納司ニ納メテ合衆王國ノ消債金

ニ組込ムヘシ

第六十七條

事

會社ノ集議ハ公裁上ノ憑拠ト為ルヘキ
此條例ニ從ツテ創立シタル會社ハ各共常會ノ決議處分及ヒ頭取支配人ヲ具フル者ハ其決議處分ヲ漏ラサス此ノ為メ常ニ制シタル簿冊上ニ議載スヘシ而シテ此決議處分ニ本會次會ノ議長ニテ已ニ調印スル以上ハ之ヲ以テ總テ審理公裁上ノ憑證ト承認スヘシ而シテ他日此條款ニ及對シタル証拠ヲ発見スル迄ハ會社ノ常會或ハ頭取支配人等ノ會議ハ何レモ正當ニ會集シ其創立ノ議定及ヒ其處分ハ何レモ相當ニ創立セシ者ト看做シ頭取支配人引受人ノ點陟ハ盡ク之ヲ確實ナリ者トシ且ツ此頭取支配人引受人ニテ所立ノ條例ハ正

當ノ者トシ他日其點陟分限等ニ就キ過失出来スルト
雖モ之ヲ以テ當日ノ所為ヲ取消スルヲ得ルヘシ
第六十八條 錫坑廳副長ノ權限

此條例ニ從ツテ創立シ錫坑廳ノ管下ニ在リテ開礦ノ
業ヲ管ハルノ諸會社ハ錫坑副長廳ノ裁判ヲ受ケ共管
理ニ属スルヲ恰モ公正法及普通法ノ諸司法裁判所
於ルカ如クナルヲ要ス但シ右錫坑廳ノ管理權柄ハ此
條例ノ條款ト及此條例ノ趣意ニ基キテ設立セシ處ノ
會社ノ規則トニ觸レ戻ラサル處ニ限ルヘシ而シテ此
廳ニ於テ生スル處ノ一切訴訟公判又ハ文例手續ニ尚
ホ一層ノ權威ヲ付與センカ為ニ惣テ此廳ヨリ發出ス
ル者ニテ會社或ハ社中代理人役員手代頭取支配人從
者ニ相違スヘキ指令規則布達委任徵召等ノ文書ハ共

其登録スルト否ヲサレニ係ラス副長ノ特令ナクモ之
ヲ英倫ノ各地ニ送達スルヲ得ヘシ若シ又特令了ル
ニ於テハ其廳ノ適當トスル處ノ情形ニ從ツテ太不列
顛及愛蘭ノ各地或ハ屬部其他近鄰ノ諸島迄ニモ送達
スルヲ得ヘシ此ノ如キ公裁ニ就キテ此廳ニ於テ發行
シタル決議指令判断ハ諸錫坑廳ノ管内管外ヲ論セス
全ク自余ノ法律ニ由テ發行シタル決議指令判断ト同
一ノ手續ヲ以テ之ヲ執行シ且ツ又此廳ノ官印及共記
録官ノ印章ハ英倫中何處ノ裁判廳及ニ何レノ裁判役
ニ於テモ總テ之ヲ以テ確實ノ者ト見做シ更ニ其他ノ
証拠ヲ要スヘカラス又此廳ノ正副記録官此廳ノ決議
指令ニ從ツテ沒収品ヲ賣押フニ當テハ司法ノ判事同
様ニ更ニ免狀ヲ要セス税金ヲ納メスニテ之ヲ競賣ニ

付し又ハ増價ノ拂下ケラ為ス權義了ルヘシ

第六十九條 有限會社原告ト為リタル時ノ訴訟入費ノ定

裁判役タル者或有限會社原告ト為リテ訴訟ヲ起シ公裁ヲ仰クニ臨ニテ若シ被告者其訴訟ニ勝利アルニ於テハ此會社ノ資産ヲ以テ其入費ヲ拂フニ足ラサル確証ヲ見ルキハ豫メ之ヲ弁償スヘキ抵當ヲ差出サシメ其抵當ノ出ル迄ハ裁判ノ事ヲ開クヘカラス

報

第七十條 會社ヨリ社員ヲ相手トナシタル訴訟ノ申入社金其他納金ノ淹滞一件ニ付キテ會社ヨリ社員ノ中ヲ相手トシテ訴訟ヲ起シテ公裁ヲ仰ク片ニハ格段ノ事情ヲ陳列スルニ及ハス唯右被告人ハ會社ノ社

員ニ屬シテ需要金其他ノ納金ヲ怠ル旨ヲ申立テ充分ナリトス

○表式ノ更改

第七十一條 管商司ニテ成規中ノ表式ヲ更改シ得ヘキ事此條例ノ成規第二ノ中ニ載セタル表式或ハ其事情ニ應ジテ成ルヘク之ニ類似シタル表式ヲ以テ總テ會所常用ノ公文ト為スヘシト雖モ管商司ニ於テ記録等ノ手数料ヲ増加セサル時ハ第一成規及第二成規ノ表式ヲ常ニ更改シ或ハ要用ナル片ハ之ヲ追加スルヲ得ヘシ此ノ如ク表式ヲ更改スル片ニハ其趣ヲ委シテ龍動府ノ新聞紙ニ出版シテ遠近ニ布告シ其出版シタル以上ハ此更改シタル成規ヲ以テ恰モ此條例中ニ加入セシ者ノ如クシテ同一ノ權威了ルヘシ然レ氏若シ管商司ニ於テ成規第一ノ表式ヲ變更スル

了ル片ハ其変更ノ時日以前ニ登録シタル會社ハ全ク之カ
為メニ關係ナキ者トシテ再々其手數ヲ為スヘカラス又之
ヲ廢止スヘカラス

○中裁人ノ事

第七十二條 會社ニテ其訴訟ヲ中裁人ニ頼ムヘキ權利
此條例ニ從ツテ創立シタル會社ハ千八百五十九年創定ノ
鐵道會社中裁人條例ニ基キテ會社ノ公印ヲ鈐シタル文書
ヲ以テ現今將本本社ト他ノ會社或ハ他人トノ一切爭論違
議疑問等ヲ決定スルヲ中裁人ニ依托シ而シテ此會社ヨリ
ハ其依托セシ處ノ人員ニ此會社或ハ其頭取支配人等ノ正
當ニ決定得ヘキ約束ヲ定メ事ヲ決スル權利ヲ委任スヘシ
第七十三條 中裁人條例ノ活用法
千八百五十九年創定ノ鐵道會社中裁人條例ノ條款ハ此條例ニ基

キタル諸會社ト諸人トノ間ノ中裁人ニ活用スル者トス且
ツ右ノ條例中ニテ會社ト稱スル處ノ者ハ總テ訴訟ヲ中裁
人ニ依托スル權利アル一切ノ諸會社ヲ指ス者ト知ルヘシ

第四編

此條例ニ從ツテ會社ヲ閉鎖スル事

序文

第七十四條 賦金人ノ釋義

此條例ニ從ツテ創立シタル會社其店ヲ閉スルニ及ニテ會
社ノ徵求ニ應ジテ出金セサルヲ得サル義務ヲ有スル者
リ之ヲ指シテ賦金人ト云フ而シテ右閉店ノ時ニ於テ賦金人
ヲ決定スル處不及之ヲ決定スル以前ノ処分ニ於テハ惣テ
賦金人ト為ルヘキ人トテ併セ云フナリ

第七十五条 賦金人負責ノ品等

此条例ニ從ツテ創立シタル會社万一間店ノ事アルニ及ン
テ其徵求ニ應シテ出金スヘキ責任ヲ負フ者ハ即チ其初メ
社負ト為リシ時日ヨリ其人會社ニ對シテ負債ヲ荷フ者ニ
シテ其約束ハ此ノ後記載スルカ如ク會社ノ徵求次第其金
ヲ還濟スヘキ者ト見做スナリ之ニ依リテ若シ賦金人身代
限リニ及フハ其人ノ資産ヲ抵當トシテ已往将来ノ徵求
ニ充カンカ為ノニ之ヲ發賣スルヲ素ヨリ法律ノ許ス処ナ
リ

第七十六条 賦金人ノ死去

若シ賦金人社中ノ姓名録ニ登記シタル前後ニ死去スルハ
ハ其身ノ代理人継嗣或ハ其遺業ヲ引受タル者本人ノ跡式
ト為リテ會社賦金ノ責任ニ任スヘシ因テ右代理人継嗣或ハ

遺業引受人ハカキ會社ノ賦金人ナルナリ

第七十七条 賦金人ノ身代限リ

若シ賦金人社中ノ姓名録ニ登記シタル前後ニ破産シテ身
代限リニ及フハ其引受人タル者本人ニ代リテ惣テ介
散ノ始末ヲ処分ヲ為シ此引受人ヲ以テ即チ賦金人ト看做
シ此引受人ヲシテ右分散シタル資産ヲ引当トシテ法律通
リニ弁償ノ事ヲ為サシメ會社ニ納ムヘキ任責ノアル摺テ
ノ全高ヲ精算スヘシ且又千八百六十一年第十月十一日前
ノ法律ニ依リテ身代限リノ責任ヲ免レタル者ニテモ此条
款ニ於テハ分散者ト看做シテ必ス弁償ノヲ為サシムル
者ナリ

第七十八条 婦女ニテ賦金人ト為リ其後婚姻シテ人ノ妻

タル片ノ事

婦女ニシテ賦金人ト為リ社中ノ姓名録ニ登記シタル前後ニ婚嫁シテ人ノ妻トナルハ右夫婦離別セサル間ハ其夫タル者ヨリ會社ニ賦金ヲ為スル恰モ其女ノ未タ嫁セサル前ノ如クナルヘシ因テ右様ノ氏ハ其夫ヲ賦金人ト看做スナリ

裁判廳ヨリ閉社ヲ命スル事

第七十九条 裁判廳ヨリ會社ニ閉店ヲ命スヘキ諸ノ事情左件ノ事情フル時ハ裁判廳ヨリ會社ニ閉店ノ事ヲ命シ得ヘシ

第一 會社自ラ特別ノ決議ヲ為シテ裁判廳ヨリ閉社ノ命アラニテラ所望スル時

第二 會社其創立ノ後一年ヲ経テモ未タ閉業ニ到ラス或ハ閉業セシ後モ一年ノ間休業セシ時

第三 社中ノ人員減少シテ其數七名以下ニ至ル時

第四 會社其負債ノ返済ニ得サル時

第五 裁判廳ノ意見ニテ閉會ヲ命スルヲ以テ公平適當ナル時

第八十条 會社其負債ヲ返済ニ得サル者トセララル、事此条例ニ從フテ創立シタル會社左件ノ事情フル時ハ乃チ其負債ヲ返済ニ得サル者ト看做スヘシ

第一 會社ノ債主タル者法律或ハ公平法ヲ照シテ証券等ニ依リテ其貸スルノ五十磅以上ノ金ヲ徵求セシカ為メニ其旨ヲ公文ニ認メテ之ヲ會社ノ本店ニ達シテ返済ヲ催促スル時ニ會社ニテ右公文到達ノ日ヨリ三週間ノ中ニ返済ヲ急リ或ハ債主ノ心ヲ満足セシムル文ノ抵当ヲ出スルヲ急ル時

第二 英倫及愛蘭ニ於テハ此ノ如キ債主ヨリ會社ヲ
相手トシテ訴訟ヲ起シ之ヲ裁判廳ニ採用シ法律
或ハ公平法ヲ照シテ審判シ債主ヲ以テ有理ト決
定スルト由モ會社ニテ之ヲ満足ス可ク弁償シ能
ハサル時

第三 蘇格蘭ニ於テハ特殊ノ判決或ハ特殊登録ノ約證
ヲ以テ之ヲ催促スルニ其期已ニ尽ルト雖モ會社
ニテ尚ホモ返済ヲ為ササル時

第四 裁判廳ニ於テ會社其負債ヲ返済シ得サルヲ判
然ト見出ス時

第八十一条 裁判廳ノ釈義

此條例ニ凡ソ裁判廳ニ掲載スル者ハ左件ノ官廳ヲ指スナ
リ

錫坑廳ノ所屬ニテ採礦ノ業ヲ営ム處ノ會社ニ於テ
ハ錫坑副長ノ裁判廳ノ云フ但シ副長ノ添書ヲ以テ「千ヤ
ンセリ」ノ最上廳ニ於テ開社ノ事ヲ命スル方尚ホ便宜
ナリトスル片ハ右「千ヤンセリ」ノ最上廳ヲ以テ裁判廳
トスヘシ

英倫ニテ登録ノ手數ヲ為シ而メ採礦ノ業ヲ営ムサル處
ノ會社ニ於テハ「千ヤンセリ」ノ最上廳ヲ云フ

愛蘭ニ於テ登録ノ手數ヲ為シタル會社ニ於テハ愛蘭出
張ノ「千ヤンセリ」廳ヲ云フ

蘇格蘭ニ於テ登録ノ手數ヲ為シタル會社ニ於テハ其地
ノ裁判廳ノ開張セル期限内ヲ云フ

若シ英倫或ハ愛蘭ニ在ル「千ヤンセリ」ノ裁判廳ニ於テ
此條例ニ從ツテ創立シタル會社ニ開社ノ命ヲ下ス時ニ

適當ト見做ス以上ハ右會社ノ本店アル地方ノ破産裁判
廳ニ指令シテ一切其公事ヲ處分セシムヘシ此破産裁判
廳ハ會社ヲ閉社セシムル公事上ニ就テハ乃チ此條例中
ニ所掲ノ裁判廳即チ「千ヤンセリ」最上廳ノ權利ヲ所有
シテ毫モ之ニ異ナル處ナカルヘシ

第八十二条 閉社ノ書面上申スルニハ凡テ願書体ヲ用
ユヘキ事

此條例ニ從フテ創立シタル會社其閉社ヲ裁判廳ニ願出ル
時ハ願書体ヲ用ヒカルヘカラス此願書ハ會社或ハ債主一
名以上或ハ會社ノ賦金人ニテ連署シ又ハ各名ニテ差出し
得ヘシ而メ裁判廳ヨリ各名ノ願書ノ情實ニ就キテ奏出ス
ル處ノ命令ハ惣テ其債主ト賦金人ノ為メニ其權利ヲ保護
スルヲ恰モ債主賦金人物体ノ連署ニテ出願セシ者ニ異ナ

ルナリ

第八十三条 裁判廳ノ權利

「千ヤンセリ」最上廳ノ裁判役ハ其廳ノ権限内ニ在ル處ノ
諸般ノ公事ヲ其會館ニ於テ執行シ得ヘシ且又錫坑廳ノ副
長ハ會社閉店ノ願請ニ就テハ會社負及其干連人等ト商議ノ
上其便利トスル如ク任セテ錫坑廳ノ管内或ハ會社本店ノ
在ル地方其他英倫中ノ地ニ於テハ何レノ時日何レノ場所
ニ拘ラス此公事ヲ聽審スル指令ヲ為シ得ヘシ斯ノ如ク之
ニ依リテ文廳ヨリ奏行シタル處ノ諸命令ハ乃チ此裁判本
廳ノ在ルトリユロ其他ノ管内ニテ副長親ラ出席シテ之ヲ
奏行セシ者ノ如ク同権同効ヲ有スヘシ亦此ノ如キ願書ヲ
聽審センカ為メニ呼出サレタル處ノ社負及干連人等ハ皆
十公事上ニ就キテ本廳ノ裁判所ニ出頭シ副長ノ前ニ在ル

裁
省

ト同様ノ手續ヲ守ルヘシ此廳ノ記録官ハ閉社ノ公事ニ就
キテ其權限及ヒ其處務ハ本廳ニ於ケル者ト異ナルヲ勿ル
ヘシ

第八十四条 裁判廳ニテ會社ヲ閉ス起初

凡テ會社ヲ閉止スルニハ右閉社ノ願書裁判廳ニ出ラタル
時日ヲ以テ其始ト看做スヘシ

第八十五条 裁判廳ヨリ猶豫書ヲ出シ得ル事

裁判廳ニ於テ適當トスルキ會社或ハ其債主或ハ賦金人ノ
申請ニ依リテハ已ニ閉社ノ願書ヲ差シ出シタル後タリ
未タ閉社ノ命ヲ下ササル前ハ何時ヲ論セス會社ヲ相手ト
為シタル公事ヲ延引シ其意見ニ從フテ一定ノ約束ヲ以テ
向後ノ手續ヲ猶豫スルヲアルヘシ且又右願書ヲ差シ出シ
タル後未タ引受人ヲシテ命セサル以前何時ニテモ引受

人ヲ命シテ會社ノ物品資産ヲ引受シムヘシ

第八十六条 裁判廳ニテ願書ヲ聽審スル手續

裁判廳ハ右願書ヲ聽審シタル上ニテ或ハ入費ヲ附シ或ハ
否ラスシテ之ヲ差返シ或ハ約定ヲ立テ或ハ立テスシテ其
聽審ヲ延引シ或ハ其都合ヲ計リ一時ノ命令ヲ下シ或ハ其
他ノ命令ヲ下スヲ得ヘシ

第八十七条 閉社ノ命令已ニ下ルノ後公事ヲ止ムル事

此條例ニ從フテ創立シタル會社已ニ閉止ノ命令ヲ得ル以
上ハ裁判廳ノ許可ヲ經ス或ハ其制定シタル約定ヲ遵奉ス
ルニアラサレハ此ノ會社ヲ相手ト為シテ公事ヲ生シ訴訟
ヲ為スヘカラス

第八十八条 閉社ノ命令寫本一通ヲ記録官ニ送達スヘキ

事

此条例ニ從ツテ創立シタル會社已ニ閉止ノ命令ヲ得ル以上ハ右會社ヨリ此命令書ノ寫本一通ヲ合本會社ノ記録官ニ送達スヘシ記録官之ヲ會社ニ関カル處ノ記録簿ニ記載スヘシ

第八十九条 裁判廳ニテ裁判ヲ止メ得ヘキ權利

裁判廳ハ會社ノ債主或ハ賦金人ノ突議ヨリ出タル願書ノ情實ニ依リテ右閉社ニ関ル處ノ裁判ヲ止メサルヘカラサルノ確証アリテ判然疑フ可ラサル時ハ已ニ閉社ノ命令ヲ下シタル後ナリト雖モ其適當トスル約束ニ從ツテ全ク之ヲ差止メ或ハ時ヲ限リテ之ヲ止ムヘシ

第九十条 保承有限ニシテ資本ヲ分株シタル會社ニ於ケル命令ノ効力

未納金之事

保承有限ニシテ資本ヲ分株シタル會社ニ閉社ノ命令ヲ下

シタル時ハ其不々持出サ、ル處ノ分株ノ資本金ハ總テ之ヲ會社ノ資産ト為シ各社負ヨリ會社ニ納ムヘキ借財ト見做シ裁判廳ノ命令次第ニ之ヲ差シ出ス可シ

第九十一条 裁判廳ハ債主或ハ賦金人ノ希望ヲ採用スヘ

キ事

裁判廳ハ閉社ニ關係スル諸件ノ情實ニ就キテ充分ナル證據ヲ得ルニ於テハ債主或ハ賦金人ノ希望ヲ採用シ而シテ其事ヲ適當ト思考スルハ一定ノ手續ヲ指令シテ債主或ハ賦金人ノ希望ヲ確定スルカ為メ之ヲ召集シテ會議ヲ行ハシメ議長タルヘキ人員ヲ撰任シ此ノ議長ヲシテ會議ノ結局ヲ上申セシムヘシ但シ此會議ハ債主ノ催シニ屬スル者ナレハ各債主ノ貸金ノ多少ヲ量ルヘシ又賦金人ニ屬スル者ナレハ會社ノ規則ニ由リテ各賦金人ニ付与シタル処ノ

裁
省

發言ノ多少ヲ定ムヘシ

引請役

第九十二条 引受役ヲ命スル事

會社ヲ閉鎖スルニ就テハ其諸務ヲ所分シ且ツ裁判廳ヲ補助
助甘セニカ為ノニ特ニ一人或ハ數人ヲ擧テ之ニ引受役タル
ル事ヲ命スヘシ之ヲ命スル手續ハ其事ヲ管理スル處ノ裁
判廳ニテ適當トスルニ從フテ一時ノ假役或ハ永久ノ本役
其他一人或ハ數人タル事務手タルヘシ若シ引受役ノ人員
一名以上ヲ置クキハ其裁判廳ニ於テ預メ事務ノ課程ヲ立
テ總負ノ恒力ニ屬スルカ或ハ一名ノ獨力ニ任スルカヲ明
了ニ制定シ且其勤務中ニ過怠ノ事ナカラシメニカ為メニ
之ヲ任命スル時ニ一芝ハ抵当物ヲ差出サセ之ヲ検査スル
ヲ得ヘシ若シ又引請役ヲ置カサルカ或ハ引受役在リテ

モ其欠負ノ間ニ會社ノ所有ハ尽ク裁判廳ノ監護ニ屬スル
ト知ルヘシ

第九十三条 引受役辞職免職補欠及給料

引受役ハ其事實ニ因リテ何レモ自ラ辞職シ或ハ裁判廳ヨ
リ其職ヲ免スルヲ得ヘシ若シ又官命ノ引受役欠負ニ至
ルヲアルキハ他人ヲ命ジテ之ヲ補スルヲモ亦官命タラサ
ルヲ得ス其給料ニ至リテハ裁判廳ノ指令ニ從フテ百ニ付
錢分ノ割合又ハ他ノ法方ヲ以テ之ヲ支給スヘシ若シ其人
負一名以上ニ至ルキハ裁判廳ノ指令ニ從ヒ右百ニ付キ錢
分ノ割合ヲ數人ニテ分配スヘシ

第九十四条 引受役ノ名目及職掌

引受役ハ其従事スル處ノ某會社ノ引請役某ト署名シ自己
ノ姓名ノミヲ用ユヘカラス其職掌ハ會社所屬ノ動産不動

裁
省

産其他一切ノ物品ヲ看護管轄シ而メ會社ノ関社ニ関シテ
裁判廳ヨリ課賦スル處ノ諸務ヲ并理スヘシ
第九十五条 引受役ノ權

引請役ハ裁判廳ノ許可ヲ以テ左ノ件々ヲ執行スル權利ヲ
ルベシ

○會社ノ名ヲ以テ原告被告ト為リ民法刑法ヲ論セス一切
ノ公事訴訟又ハ追究等ノ公裁ヲ仰ク

○會社ノ便益トナリテ関社セシメンカ為メニ一時共業ヲ
営ム

○何等ノ人何等ノ會社ニ限ラズ會社ノ動産不動産及物品
ヲ公賣或ハ私賣ヲ以テ之ヲ全賣シ或ハ分賣シ或ハ譲リ
渡ス

○會社ノ名ヲ以テ總テノ証券受納証券ノ公書類ヲ作り要
用ナルモノ社印ヲモ捺用スル

○各賦金人ノ解散業ニ就キテハ此會社ノ所得タル一キ
金子ハ右賦金人ノ家産ヲ引当トシテ其配当金ヲ証明シ
之ヲ催促シ之ヲ徴求シテ他ノ債主ト齊シク之ヲ受納ス
ル

○會社ノ名ヲ以テ為替手形約定手形ヲ振出し受付ケ又ハ
之ニ裏書シ或ハ會社ノ資産ヲ引当トシテ要用ノ金子ヲ
募リ借ルヘシ此ノ如ク會社ノ名ヲ以テ振出し受付ケ又
ハ裏書シタル為換手形約定手形ハ會社ニ於テ其負責ニ任
スヘキ

○會社親ヲ其高業ヲ經營スル際ニ振出し受
付又ハ裏書シタル為換手形約定手形ト同様ノ効用ヲ有
スヘシ

○若シ要用ナルモノハ死去セル賦金人ノ為メニ引受役ノ名

義
省

目ヲ以テ其遺産ノ處分狀ヲ求請シ其他賦金人及其資産ヨリ相納ムヘキ處ノ金子ヲ還濟セシムルヲ但シ此等ノ所業ハ會社ノ名目ヲ以テ所置スルニ不都合ナル場合ニ限ルヘシ且又賦金人ヨリ金子ヲ取立ルカ為メニ遺産ノ處分狀ヲ求請シ其役名ヲ用ユルキニハ總テ此役ヲシテ此ノ如キ金子ノ取立ニ使テラシメンカ為メ之ヲ以テ引受役ニ返濟スヘキ負債ト見做スヘシ
其他總テ會社ノ事務ヲ止メ其資産ヲ配分スルニ必要ナル件々ヲ取扱フ

第九十六條 引受役ノ臨機ノ裁置

裁判廳ハ命令ヲ下シテ引受役タル者ハ其廳ノ允准ヲ經ス或ハ周旋ヲ要セスシテ前件ノ諸權カヲ行ヒ得ヘキ旨ヲ約定スルヲ得ルニ但シ一時ノ假役ヲ置クハハ之ヲ命スル宜旨中ニ其權ヲ制限セサル可ラス
第九十七條 引受役ニ代書人ヲ添ル事
引受役ハ裁判廳ノ允准ヲ以テ代書人ヲ擧ケ用ヒ以テ其職務ヲ參伍セシムルヲ得ヘシ

裁判廳ノ常權

第九十八條 資産ヲ集メ之ヲ用ユル事

裁判廳已ニ閉社ヲ命スルノ後ハ速カニ賦金人ノ姓名録ヲ定メ而シテ此條例ニ從フテ改正ヲ要スルヲアルキハ之ヲ改正スル權ヲ有シ而シテ會社ノ資産ヲ徵集シ其負責ヲ辨償スル費ニ用ユヘシ

第九十九條 賦金人ノ代理者ニ就キテノ條則

賦金人ノ姓名録ヲ定ムルニ臨ニテハ裁判廳ハ其身自ラ賦金人タル權利ヲ有シテ負債ニ任スル者ト代理ノ賦金人タ

ル者トテ區別シ且又姓名録ニ死去シタル賦金人ノ代理者ヲ登録セシムルハ其継嗣承産者ヲ載スルニ及ハスト雖モ裁判廳ニテ之ヲ適當トスル片ハ之ヲ登録シテモ妨ケナシトス

第百条 裁判廳ニテ所有ヲ引渡サシムルノ權

裁判廳ハ已ニ閉社ノ命ヲ下シタル後十レハ何時ヲ論セス姓名録ニ登録シタル賦金人保承人受取役為換方手代又ハ會社ノ役員等ニ指令シテ其所令ノ時限ノ間ニ會社ノ所有ニ屬スル處ノ金銀書簿公文家作地面物品等ヲ引受役ノ手ニ引渡サシムルヲ得ヘシ但シ此等ノ所有ハ其時ハ引受役ノ手ニ在リト雖モ元ト會社所有ノ屬スル者ナリ

第百一条 裁判廳ニ於テ賦金人ニ其負債ノ還済ヲ命スルノ權

裁判廳ハ閉社ノ命ヲ下セル後何時ヲ論セス其時ノ姓名録ニ所定ノ各賦金人ニ指令シテ其所令ノ手續ニ從フテ其本人或ハ其名代ト為ル處ノ人ノ資産ヨリ會社ニ納ムヘキ負債ノ金ヲ返済セシムルヲ得ヘシ尤モ此條款ニ從フテ本人或ハ其名代ト為ル處ノ人ノ資産ヲ以テ裁判廳ノ指令ニ依リテ會社ノ徵求ニ應スル諸金ハ此限ニアラス一無限會社ニ於テハ右賦金人其會社ノ社員タル名目ノ外ニテ會社ヨリ受取ルヘキ利益金等アル片ハ乃チ之ト差引ノ勘定ヲ為シテ此負債ヲ消算シ得ヘシ

有限無限會社ヲ論セス其負債ヲ債主總負ニ返渡シタル上ハ賦金人何タル緣故ニ由リテ會社ヨリ受取ヘキ金子アル片ハ乃チ爾後ノ懸金ヲ引當トシテ之ト差引ヲ為スヘシ

第百二条 裁判廳ニ於テ出金ヲ命スルノ權

裁判廳ハ閉社ノ命ヲ下セルノ後何時ヲ論セス會社資産ノ
是不足ヲ檢定スル前後賦金人總負或ハ其若干負ラシテ其
當時ノ姓名録ニ於テ負責ニ任スル制限ノ多寡ニ準テ會
社ノ負債及ヒ其閉社ノ出費ヲ辨償スルニ要用ナル總高或
ハ若干高ヲ賦出セシムヘシ而メ賦金人ノ中ニテ或ハ其制
限ノ出金ヲ為シ能ハサル事ニ注意シテ之ヲ豫防スルカ為
メニ相当ノ余計融通ヲ立テ置クヘシ

ルノ權

第三百三条 裁判廳ニ於テ會社ノ負債ヲ銀行ニ返済セシム
裁判廳ハ會社ニ負債アル處ノ賦金買主或ハ其他ノ人ニ指
令シテ其ノ納ムヘキ金子ヲ引受役ニ任拂フヲナク唯タ引
請役ノ勘定ヲ以テ國立銀行或ハ其分局ニ返済セシムルヲ
得ヘシ斯ノ如キ指令ハ乃チ之ヲ直ニ引受役ニ返済セシ

メル者ト同一ノ手續ヲ以テ施行スヘシ

第四百条 諸勘定ノ規則

裁判廳ヨリ會社ノ閉止ヲ命シタル時ニ當リテ國立銀行或
ハ其分行ニ任拂ヒ及引渡シタル金紙幣、手形、證券及其他ノ
抵当ハ之カ算計ヲ為シ其出入受拂等總テ裁判廳ノ指令ス
ル順次規則ニ從ハサル可カラス

定則

第五百五条 賦金人ノ代理タル者出金ノ命ヲ奉セサル
若シ死去シタル賦金人ノ名代タル者裁判廳ヨリ指令スル
處ノ返済金ヲ怠慢スルハ法律ニ照シテ右ノ死去シタル
賦金人ノ動産不動産ノ処分ニ取掛リ之ヲ以テ其負債ヲ辨
償セシムルヲ得ヘシ

第六百六条 命令ヲ以テ確實ノ証拠トナス事

此條例ヲ照シテ裁判廳ヨリ各賦金人ニ下スル命令ハ其命令ニ對シテ上廳ニ越訴スル規則ニ基クヘシ其規則ハ下文ニ詳ナリ充件ノ確證タルヘシ即チ返済ヲ命ジタル金子ハ其若干ヲ論セス之ヲ負債ト看做シ其他令狀中ノ文言ハ右人々ヲ相手トシテ其事件ニ就キ之ヲ發行セシ者ト心得ヘシ但シ死去セル賦金人ノ不動産ノ所分ニ属スル案件ヲ除クヘシ然ル場合ニ於テハ其継嗣或ハ承業人タル者當時賦金人ノ姓名録ニ加入セルニ非ラサレハ此ノ如キ命令ハ只其不動産ヲ處分スル而已ノ確證ト為スヘシ

除キ得ル事

裁判廳ハ一定ノ日限ヲ極メ右限内ニ債主ヨリ會社ニ貸付タル金子家産等ヲ討求スル事ヲ證明セシムヘシ若シ右日

限ニ至リテ申出サルキハ配分ノ特典ヲ取除ク權利アルヘシ

第百八条 錫坑副長廳ニ於テ負債ノ證拠ヲ立テシムル所

分順序

債主ヨリ錫坑副長廳ニ申請シテ貸金等ノ討求ヲ證明スル時ニ臨ニテ引受役或ハ債主或ハ賦金人ヨリテ其權利ヲ争ヒ共事争端ヲ開クニ決スルニ於テ本廳ハ下文ニ掲載スル處ノ越訴ノ條規ニ從ヒ直ニ其公事ヲ裁判審決スル權ヲ有スヘシ因テ本廳ハ此ノ目的ノ為メニ証人或ハ原告被告ノ自ラ裁判ヲ乞フト或ハ命ヲ下シテ之ヲ召出ストニ拘ラス干連人等ノ口供ヲ取リ之ヲ吟味シ其公事ヲ裁判スルニ必要ナル權ヲ有シ且ツ之ヲ施行スヘシ

一此ノ裁判廳ハ亦タ債主ヨリ會社ノ資産ヲ討求スル處ノ

權利果して確實ナルヤ又ハ其制限ニ越ヘサルヤ審決シ
且ツ之ニ關係シタル人々ニ其權利ヲ告示シテ其趣ヲ遵奉
セシムル權ヲ有スヘシ且又此ノ如キ審問ヨリ起ル所ノ事
實ノ議論或ハ事實ト法律ト相混セル議論ヲ尚更ニ充ルニ
判決セシカ為メニ副長ハ其ノ適當ト思フ處ニ從ツテ之ヲ
其廳ノ故例法ヲ以テ審判シ或ハ「コルンウヲ」ル或ハ「デボ
」縣ノ下等裁判所或ハ龍動或ハ「ミツトルセツク」スノ最上
裁判廳ノ中ノ一廳ニ控訴シテ錫坑廳ノ通例或ハ特例ノ陪
審人ヲ以テ之ヲ裁判ヲ乞ハシムルヲ指令シ及之ヲ決定
スル權ヲ有スヘシ然ル片ニ於テ、之ヲ審糾スルニ全ク法
律上ノ順序ニ依リテ決シテ原告被告ノ一致承諾ヲ要セス
且又此ノ如キ公事ニ於テハ裁判役ハ陪審人ヨリ差出ス處
ノ見込書ヲ以テ之ヲ判決落着スル為メニ充ルノ者ト看做

ヘシ但シ裁判役ヨリ副長ニ異議ヲ報告シ又ハ失錯意外ノ
事起リ又ハ新タニ事實ノ真証ヲ察見シテ其見込書ヲ落着
ノ本トス可ラサレトシテ證明スル等ハ此例外ナリトス
第百九條 裁判廳ハ賦金人等ノ權利ヲ定ムル事
裁判廳ハ賦金人等ノ權利ヲ定メ且ツ其殘餘ノ金高ハ之ヲ
其權利ヲ有スル者ニ配分スヘシ
第百十條 裁判廳ニテ出費ヲ命スル事
裁判廳ハ會社ノ資産ヲ盡シテモ其責ヲ塞クニ足ラサル片
ハ其適當トスル處ニ從ツテ預メ命令ヲ下シテ會社ノ資産
中ヨリ閉社ノ出費ヲ辨償スルヲ指令スヘシ
第百十一條 會社ノ分散
會社ノ事務ヲ全ク閉鎖シタル以上ハ裁判廳ニテ命令ヲ下
シテ其當日ヨリ右會社ヲ分散セシムヘシ爰ニ於テ會社ハ

全ク分散スルナリ

第百十二條 記録司ニテ會社分散ノ始末ヲ登録スル事
分散ノ命令ヲ得ルキハ引受役ヨリ其趣ヲ記録司ニ報知ス
ヘシ記録司ハ之ヲ得テ以テ右會社分散ノ始末簿冊ニ登録
スヘシ

第百十三條 會社ノ分散ヲ報知セサル罰金

若シ引受役ノ怠慢ニ依リテ裁判廳ヨリ會社ヲ閉社セシメ
タル趣及右分散ノ命令ヲ記録司ニ報知セサルキハ右怠慢
ノ日數中一日ニ五磅ヨリ多カラサル罰金ヲ追取セラレヘ
シ

第百十四條 願書ノリスペンテニストナル事

此條例ニ從ツテ裁判廳ノ命令ヲ以テ會社ヲ閉止セント欲
スル願書ハ公平法ニ基キテ左ノ議定ノ手續ニテ之ヲ登録

スヘシ此議定ハ「ウイクトリア」女主殿下ノ世第二年第三年
ノ會議ニ設立セル議定ノ箇定^第中ノ「リスペンテニス」ヲ成ス
者ト稱ス

裁判廳ノ特權

第百十五條 裁判廳ニテ會社ノ私有物ヲ所持スルトノ嫌
疑アル人々ヲ呼出スヘキ權

裁判廳ハ閉社ノ命ヲ下セル後右會社ノ役員或ハ他人ノ内
ニテ會社ノ資産ヲ自己ノ所有トシ又ハ會社ニ負債アルノ
嫌疑ノアル者或ハ亦會社ノ營業資産物品ノ事ニ就テ其詳
細ヲ告知シ得ヘキ者ヲ呼出スヲ得ヘシ已ニ之ヲ呼出し
タル上ハ裁判廳ニテ此役員或ハ右干連人等ヲシテ會社ニ
關係シテ其監守内ニ在ル所ノ簿冊證書公文類等ヲ悉皆差
出サシムルヲ得ヘシ若シ此ノ如ク呼出サレタル人々裁

判廳ヨリ相當ノ費用ヲ賜リテ不足ナキニ條理適當ノ故障
開廳ノ時ニ其旨ヲ告知シテ裁判廳ノ許可ヲ得タル故障
ラスレテ其日限ニ出廳スル事ヲ否ムルハ裁判廳ニテ此人
ヲ捕縛シ之ヲ廳ニ出シテ審訊スルヲ得ハシ然リト雖
トモ若シ何人ヲ論セス右會社ノ簿冊証書公文類等ヲ貸金
ノ抵當トシテ執押ヘタル事ヲ陳述スルニ於テハ務メテ其
權利ヲ妨ケサル様ニシテ差出サシメ而シテ閉社ノ一件ニ
就キテ此ノ如キ抵當ノ權利ニ關係スル處ノ疑問ヲ裁決ス
ル等總テ其權内ニ在ルヘシ

第百十六條 錫坑副長ノ裁判廳ノ特格ノ例則

錫坑副長ノ裁判廳ハ閉社ノ命ヲ下セル後若シ某人アリテ
會社ノ礦坑ニ屬スル處ノ機械物品鑛物其他ノ所有ヲ條理
適當ノ方法ニ從フテ之ヲ執押ユルハ副長或ハ其記録官

ハ「ウイクトリ」了。女主ノ世第十八年ノ議定第三十二篇第十
一章ニ制定シタル手續ヲ以テ之ヲ裁判スル法則トス而メ
此ノ如キ公事ハ副長ノ適當トスル處ニ從ツテ之ヲ本廳或
ハ龍動或ハ「ミツドルセツクス」ニ於ケル諸裁判所ニ上控シ
最上廳ノ裁判役ノ審訊ヲ仰クヲ得ヘシ但シ其法方手續
ニ至リテハ全ク債主ノ貸金ノ公事ニ異ナルヲナシ

第百十七條 裁判廳ニテ干連人等ヲ吟味スル事

裁判廳ハ會社ノ事務營業資産物品ニ關係シテ出廳セル人
ヲラシテ或ハ口上或ハ書付ニテ誓詞ヲ爲サシメテ之ヲ吟
味シ此者共ノ返答ヲ書留メ以テ之ニ調印セシムルヲ得ヘ
シ

第百十八條 賦金人ニテ其所有物ヲ潛匿シ搬移シ又ハ亡

命スル者ヲ捕スルノ權

解社ヲ命スル前後ニ當リテ此會社ノ賦金人タル者其責任ノ徵求ヲ脱セニカ爲メ或ハ會社ノ事務上ニ就テノ檢査ヲ逃レニカ爲メ此國ヲ離レ或ハ其他ノ事故ニ依リテ亡命シ或ハ其資産即チ所有品ヲ潛匿搬移スルノ証據アルトキハ裁判廳ニ於テ此ノ者共ヲ拏捉シ其人ノ書物書付金錢金錢ノ抵當物物品及ヒ其他ノ所有物ヲ取上テ而メ裁判廳ノ命令アル時日迄其當人ニ之ヲ着護セシムヘシ

第一百九條 裁判廳ノ重權

此條例ニ依リテ裁判廳ニ假スル權義ハ法律上或ハ公平法ニ於テモ賦金人及ヒ其資産或ハ會社ノ借金人ニ對シテ其徵求負債等ヲ裁判シ其處分ヲ爲スヘキ固有ノ權義ノ外ニアリテ全ク之ヲ增加スル者ナレハ決シテ之ヲ以テ之ヲ制限スル者ニアラスト心得テ其取扱ヲ爲スヘシ

○命令ノ施行及越訴ノ事

第一百二條 命令必行ノ權

此條例ニ基キテ英倫愛蘭ノ^{キヤンセルリ}刑法院ヨリ發出シタル一切ノ命令ハ訴訟ノ未タ決セサル際ニ當リテ同院ヨリ發出シタル命令ト同様ニ必ス奉行セラレ且ツ此條例中此一條ノ趣意トシテ錫坑副長ノ裁判廳ハ其固有ノ權義ノ外允テ英倫刑法院ニ於テ其支配下ニ命令ノ必行ヲ命スルト同權ヲ保ツ者トス是故ニ錫坑副長裁判廳ノ權義ハ英倫刑法院ノ管轄スル限界ト同様ナル可シ

第一百二一條 蘇格蘭ニ於テ賦金人ニ命シテ徵求ニ應セ

シムル事

蘇格蘭ニ於テ官命ヲ以テ會社閉鎖ノ命令ヲ達シタル上ハ其諸裁判所ニ於テハ引受役ニ指令シテ賦金人ノ各其拂フ

可キ金高ト全ク負債ト爲リテ出金スヘキ月日ヲ記シタル
姓名録ヲ差出し引受人ヲシテ之ヲ証明セ然レテ後キ右
賦金人等ヨリ書面ノ月日ニ至リテ其金高ヲ納メシムヘシ
若シ其月日ニ至リテ尚ホ出金セサルハ拂濟ノ日迄一个
年百磅ニ付五磅ノ利息ヲ付シ之ヲ拂フ可キ命令ヲ下スヘ
シ斯ノ如ク此賦金人ニ對シテ發出シタル違書ハ乃チ法律
上ノ徵求ニ属スルヲ以テ右元金利足トモ相納ムヘキ趣ヲ
六日ノ間ニ領承スヘシ裁判廳ノ許可ヲ經スレテ之カ延引
猶豫ヲ乞フヘカラス

第百二十二條 英倫ニ於テ發出シタル命令ヲ愛蘭蕨格蘭
ニ於テ必行ス可キ事

此條例ニ依リテ創立シタル會社ヲ鎖閉スル事ニ付英倫ノ
裁判廳ヨリ命令ヲ發出スル時ニ當リテ其會社ノ本店若シ

蕨愛ノニ地内ニ在ルニ於テハ右ニ地ノ裁判所ニ於テ此命
令ヲ奉行スルヲ恰モ其地ノ裁判廳ヨリ發出セシ者ノ如ク
同様タル可シ又此事ニ付キテ蕨格蘭ノ裁判廳ヨリ發出シ
タル命令ヲ英愛ニ地ノ裁判廳ニテ奉行シ又愛蘭廳ヨリ發
出シタル者ヲ英蕨ニ地ノ裁判所ニテ奉行スルヲ全ク其本店
ノ在ル地方ノ裁判所ヨリ發出シタル者ト同様ニ取扱フ
ヲ要ス

第百二十三條 他ノ裁判廳ノ命令ヲ取扱フ方法

前條ニ載スルカ如ク此裁判廳ニ於テ發出シタル諸命令ヲ
他ノ裁判廳ニ達シテ奉行セシムル時ハ其命令ノ官寫一本
ヲ添ヘテ右奉行スル處ノ裁判廳ノ掛リ官員ニ呈與シ而シ
右官寫ハ即チ之ヲ發出シタル裁判廳ノ命令ニ紛レキ確
証タルニ依リテ之ヲ受ケ付ケタル裁判廳ハ本廳ノ命令ヲ

施行スルト同様ニ此ノ事ヲ處置ス可シ
第百二十四條 命令ニ逆テ上控スル事
此條例ニ從ツテ管轄ノ權ヲ有スル處ノ裁判廳ヨリ會社閉
鎖ノ事ニ付發出シタル命令ノ覆審ヲ乞ヒ或ハ已ニ決セシ
處ノ判断ヲ上控スルハ右裁判廳ノ管轄スル處ノ他ノ公事
ノ命令ニ逆テ覆審ヲ乞ヒ上控ヲ為スモノト一様ノ規則
ヲ蹈ミ其方法ニ從フヘシ之ヲ為スニハ稔訴シタル者右命
令ノ布達アリシ時ヨリ三週間ノ内ニ必ス控告ノ書面ヲ差
出ヲ要ス否ヲサレハ此ノ覆審控告ヲ採用セサルナリ但シ
本廳ヨリ其廳ノ規法ニ隨テ其時限ヲ延引スヘキ命令ヲ下
告シタルナリハ此例ニテラス
一會社閉鎖ノ事件ニ就キテ法律ヲ照シテ錫坑長官格段ノ
命令又ハ尋常ノ命令ヲ以テ其副長ノ已ニ決シタル裁判或

ハ命令ヲ覆審セントスルナリ之ヲ刑法院ノ控告廳ニ上告
スルヲ正當トシ其廳ニテ此控告ヲ聽斷ス可シ且ツ此上控
ヲ聽斷スルカ為メニ其入用ニ屬シ而メ此下廳ニテ取扱
公書公文及ヒ証書或ハ副長局ノ諸証書等ヲ討求スヘキ權
義ヲ有シ而シテ當今女主陛下即位ノ十八年ニ於テ制定シ
タル巴力門ノ條例第三十二回ニ於テ取極メタル錫坑司長
ノ有スル他ノ管理持權ヲ悉ク使用ス可シ而メ刑法院ノ控
告廳ヨリ此事ニ付キ發出シタル命令ハ之ヲ結局ト為シ之
ヲ越ヘテハ更ニ控告スル上廳アラサルナリ
第百二十五條 審判ノ布達ニハ官負ノ信印ヲ取ルヘキ事
此條例中ノ此一條ニ屬スル處ノ諸取扱ニ於テ諸裁判廳判
事、代理裁判役及諸官廳ノ司法行政ノ官負及裁判廳ノ處分
ヲ奉行スル為ニ使用ナル、處ノ諸官負ハ英愛二地ノ審判

院破産裁判廳或ハ蘇格蘭ノ裁判廳ノ官員或ハ錫坑副長廳ノ記録官ノ印章及各其廳ノ官印ヲ辨知シ此條例ノ處分ニ付テ發出頒布スル處ノ公文ノ抄本ニ從ツテ之ヲ以テ審判上ノ確徴ト為スヘシ

第百二十六條 証據ヲ取ル為メノ特任辨務人

英國ニ在リテハ破産裁判廳ノ判事及驛遞ノ本局ヲ距ル二十里以上ノ地ニ在ル所ノ地方下等裁判廳ノ審官受地ニ在リテハ其破産裁判廳ノ弁務官及副狀師記録官及蘇地ニ在リテハ一品ノ代官ハ本國中何レノ場所ニ於テモ會社ヲ閉鎖スルハ臨レテハ此條例ニ從ツテ其証據ヲ受付ルヘキ特任弁務人タル可シ是ニ由リテ右ノ如ク特任ヲ得テ奉職スル處ノ弁務人ハ假令會社ヲ閉鎖スルニ就キテ命令ヲ下シ審判ヲナス裁判廳ノ支配外ノ者ナリト雖モ此條例ニ

從ツテ証據人ヲ審訊スル事ヲ引受ケ擔當スルヲ以テ其法トス而メ右特任ノ弁務人ハ証人ヲ召コ出シテ之ヲ審訊シ及要用ノ書類ヲ請求シ之ニ命コラ之ヲ差出サシメ及証人ノ過怠ヲ検査シ或ハ之ヲ罰シ其他ノ權義ヲ有スルヲ恰モ前条閉鎖ノ命ヲ下スヘキ諸裁判廳ノ官員ニ異ナル事ナク之ヲ處分シ而メ証據人ニ出廳ノ費用ヲ給ス等ノ雜務ニ至ル迄都テ其職掌ニ屬シ右公事落着ノ上ハ其始末ヲ明記シテ指令ニ從ツテ之ヲ前条諸裁判廳ニ申告スヘシ

第百二十七條 裁判廳蘇地ニ於テ審訊ノ事

裁判廳若シ蘇地ニ在リテ閉鎖シタル會社ノ資産及其營業ノ取扱方及其賦金人ノ資産家業事跡等ニ就キテ問審訊查ノ事アラントスルハ右會社ノ賦金人ニ屬スル者ト或ハ否ラサルトニ拘ラス其地ニ居任スル者共テ盡ニ提審シ

テ妨ケナシ儲審紀ヲ為シトスルハ其命令ヲ其人ノ在留
スル地方ノ宰官ニ下シ宰官ハ之ヲ受ケテ一定ノ時日ト一
定ノ場所ニ呼出シ誓詞ヲ十サシメテ以テ証人或ハ持主タ
ル事ヲ取極メ口演又ハ書取ヲ以テ一應ノ審問ヲ為シ其保
守ニ属スル所ノ要用ノ書冊証書類ヲ差出サセ共上ニテ宰
官ハ右審問ノ始ホテ定式ノ文書ニ認メテ之ヲ共裁判廳ニ
進達ス可シ又裁判廳ノ命令ニ依リテ此書冊証書類ノ原本
或ハ副本校書筆ヲ宰官ノ取捨シタル上ニテ相添ヘテ差出
スヘシ若又右審問ノ為メニ呼出サレタル者一定ノ時日一定
ノ場所ニ出頭セス出頭シテモ審問ヲ受ルコトヲ否シ或ハ要
用ノ書冊証書類ヲ差出サ、ル如キ過急アル時ハ宰官ハ共
人ノ証人或ハ持主タル名義ニ對シテ之ヲ糾弾シ獲地ノ法
律ヲ照シテ之ヲ處分スヘシ且ツ又宰官タル者裁判廳ノ命

令ニ由リテ并務官ノ職ヲ奉シテ此一件ヲ取扱フ時ノ手数
料ト及証人或ハ持主ニ付與スヘキ出廳ノ諸手當等ハ都テ
獲地ノ律例ニ從フテ適當トス若シ又証人タル者ヨリ充分
ノ證據タルニ足ラサル趣意ヲ述ヘ或ハ差出ス書類等ニ就
テ異存ヲ陳シ其他苦情故障等ノ事アル時ハ宰官ニテ其条
理ヲ考ヘ適當ト思フキハ其間暫ク審問ヲ止メ其趣ヲ裁判
廳ニ進達ス可シ

第百二十八條 愛蕪ノニ地其他ノ属部ニ於テハ一切誓詞
ヲ適當ナル裁判廳或ハ官負ノ目前ニテ為
ス可キ事

此條例中此一條ノ趣意トシテ制定スル所ノ誓詞承諾明告
ハ本國ハ勿論愛蘭其他ノ殖民地島嶼新地等ノ属部及外國ニ
テ女主ノ所領ニ係ル地方ニ於テハ諸裁判廳及諸審司及律

例ニ依リテ誓詞ヲ受可キコトヲ許サレタル人物ノ目前ニテ之ヲ施行ス可シ且又女主陛下ノ所領ニアラサル地方ニ於テハ女主陛下ノ正副領事官ノ目前ニ於テ之ヲ施行ス可シ而シテ諸裁判廳審判吏持任弁務人及代言人ハ此條例中此一條ノ趣意ニ付キテ施行シタル誓詞ニ右諸裁判廳及審判吏代人正副領事官ノ信印花押アル者ハ互シク之ヲ以テ審判上ノ確証ト看做スヘシ

○官命ニ倚ラスシテ會社ヲ閉鎖スル事

第百二十九條 自ら解社ヲ為シ得ル諸事情
此條例ニ從フ會社ハ隨意ニ解散スルヲ得ヘシ其餘左ノ如シ

一 會社創立ノ定款ニ依リテ約定セシ處ノ年期已ニ終ル時或ハ會社ヲ閉鎖スヘキ事變出來シ而シテ此等ノ

事アルハハ之ヲ閉鎖スヘキ旨兼テ定款中ニ明文アリ之ニ依リテ社員一統集會シ其議閉鎖ニ決定スル時

二 特別ノ議定ニ依リテ自ら閉社ニ決セシ時

三 會社ノ負債甚々重クシテ其事務ヲ永續シタラザル事ヲ看出シ其為メニハ閉鎖スルヲ以テ相當ナリト非常ノ議定ニテ決着スル時

非常ノ議定トハ特別ノ議定ニ異ナリテ第一次ノ集會ノ決議ヲ第二次ノ集會ニ於テ取極ムル者ニテラス唯タ一次ノ集會ニテ事務ヲ決定スルヲ云フ其他ノ手續ハ都テ特別ノ議定ノ如シ

第百三十條 隨意閉社ノ端緒
隨意閉社ハ右閉鎖ノコトヲ議定シタル時日ヲ以テ其起始ト

心得可シ

第三百三十一條 隨意解社ノ効

會社自ラ閉鎖スルトキハ其ノ解社ノ初日ヨリ右一件ニ就キテ肝要ナルモノヲ除クノ外都テ會社ノ事務ヲ止メ株式ノ受授買賣等ハ引受人ノ許可アルマテハ都テ無用ニ属スヘシ然レトモ其ノ會社合休タル品位權義ハ何等ノ規則アリト雖モ會社ノ事務全ク閉鎖スル迄テハ其存ニ存在ス可シ

第三百三十二條 隨意閉社ノ議定ヲ布達スル方法

隨意ニ會社ヲ閉鎖スヘキ特別ノ議定又ハ非常ノ議定ハ英倫ノ所轄ニテ登録シタル會社ナレハ倫敦ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ公布シ蘇格蘭愛蘭ノ二地ニ於ル者ノ如キハ各其都府ノ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告ス可シ

第三百三十三條 隨意解社ノ結局

左ノ件々ハ隨意解社ノ時ニ當リテ出来スル者ナリ

- 一 會社ノ所有品ハ社則ニ依リテ豫シメ之ヲ定ムルニテラサレハ其負債ノ支消ニ引當テ其余ハ社負ノ制限及利息ノ多少ニ應ジテ之ヲ分配スヘシ
- 二 引受人ヲ命シテ以テ會社ノ所有物ノ分配方及ヒ其事務ヲ閉鎖スル事ヲ取扱ハシムヘシ
- 三 尋常集會ノ時ニ當リテ會社ノ適當ト見込タルモノ一人或ハ一人以上ノ引受人ヲ取極メ之ヲ命シ且ツ此輩ニ一定ノ給料ヲ與フヲ決ス可シ
- 四 若シ一人ノ引受人ヲ命スルキハ其手續等都テ此ノ款條中一人以上ノ者ニ施スル者ヲ活用ス可シ
- 五 引受人ヲ命シタル以上ハ尋常ノ集會或ハ引受人ノ

許可アルニテアラスレハ支配人ノ權義ハ全ク相止ム
可シ

〔六〕數名ノ引受人ヲ命スルニ當リテハ其職ニ就クキニ
其中一人或ハ兩三人ニ右一切ノ權義ヲ付與スヘキ
旨ヲ取極ム可シ若シ豫シメ之ヲ決定セサルキハ必
ラス二人以上ニテ其事ヲ取扱ハシムヘシ

〔七〕引受人ハ裁判廳ノ允許ヲ得スト雖モ都テ官命ノ引
受人同様ノ權義ヲ所有ス可シ

〔八〕引受人ハ前條ノ規定ニ從ツテ會社ノ賦金人ノ名簿
ヲ定ムルニ就キテ都テ裁判廳同様ノ權義ヲ所有ス
可シ斯ノ如ク取定メタル名簿ハ右賦金人タル可キ
責任ノ確乎タル証拠トナル可シ

〔九〕已ニ解社ノ事ヲ議定シタル後及ヒ會社ノ消債ノ為

メニ其徵求ノ勘定ヲ明算セサル前ニ當リテ引受人
ハ現ニ其名簿中ニ記名スル處ノ賦金人ニ命シテ會
社ノ負債ノ項ヲ充ス可キ見込ノ金高及ヒ解社ニ付
テノ諸入用ヲ押ハシム可シ而メ引受人此徵求ヲ賦
金人ニ命シテ其責任ニ當テシムルニハ其内必ラス
之ニ應スルヲ能ハサル者アラニテ量リテ一定ノ
融通ヲ為シ置カサル可カラス

〔十〕引受人ハ會社ノ負債ヲ拂ヒ及賦金人ノ責任ノ高ラ整
理ス可シ

第百三十四條 保承有限會社ヲ閉鎖スルニ付キ分株資本
ニ起ル効

保承有限ニシテ分株ノ資本ヲ有スル所ノ會社ヲ隨意ニ閉
鎖スル時ハ右社員ヨリ未タ納メサル處ノ資本ハ乃チ全ク

會社ノ消債金ト看做シ社負ヨリ會社ニ納ムハキ特別ノ負
債ナルヲ以テ引受人ノ指令次第其責任ノ多少ニ應シテ之
ヲ拂フヘシ

第一百三十五條 會社ノ權ニテ引受人ヲ命スルヲ他ニ委

任スル事

會社隨意ニ解社シ或ハ解社ノ事ニ及ントスル時ニ當リテ
ハ非常ノ議定ニ於テ其債主或ハ債主ノ世話人ニ引受人ヲ
撰任スルヲ及其欠負ヲ補フノ權義ヲ委任シ或ハ債主ト
協同議定シテ以テ引受人ノ受用ス可キ權限及ヒ之ヲ受用
スル方法ヲ取極ムヲ了ルヘシ之ニ依テ債主ノ此委任ノ趣
意ニ基キテ施スルノ權義ハ乃チ會社ノ自ラ所分スル者ト
同様ニ心得ヘシ

第三十六條 債主ヲ約束スル規定

隨意ニ解散セントスル會社及ヒ既ニ爰ニ及ニタル會社ト
其債主トノ間ノ協同約定ハ非常ノ會議ニテ承諾シタル以
上ハ之ヲ以テ會社ヲ束縛シ又タ債主ノ人員ト其金高ノ四
分ノ三ノ承諾ヲ得タル以上ハ之ヲ以テ債主ヲ束縛シ何レ
モ動カス可カラサル責任ト為シ下條ニ在ル越訴ノ規令ニ
從フヘシ

第三十七條 債主或ハ賦金人ニテ越訴スルノ權

前條ニ載セシ如ク會社ト債主或ハ賦金人ト協同約定ノ上
ニテ爭訟ノ事起ルハ右協議成就ノ日ヨリ三周ノ内ニ之
ヲ裁判廳ニ上控ス可シ裁判廳共事ヲ條理アルト思フニ於
テハ之ヲ匡正シ之ヲ確定シ之ヲ改正ス可シ

第三十八條 隨意閉社ノ時ニ當リテ引受人賦金人ヨリ
裁判廳ニ請求スル權

隨意解社ノ時ニ當リテ引受人或ハ賦金人ハ英倫、愛蘭、蘇格蘭ノ諸裁判廳ニ請求シテ此解散ノ事件ニ就キテ起リテ所ノ疑難ヲ決定シ或ハ徵全ノ命ヲ施行シ或ハ他ノ事件ニ於テ裁判廳ノ命ヲ以テ解社シタルキニ受用スヘキ權義ノ全部又ハ一部ヲ受用ス可キ旨ヲ請求ス可シ裁判廳ハ前条ノ場合ヲ監ミ若シ其請求ヲ正適肝要トスル上ハ此疑難ヲ決定シ或ハ所求ノ權義ヲ其見込ノ如ク附與シテ此訟詞ヲ匡正シ之ヲ許容ス可シ且又裁判廳ニ於テ正當ト見込ムルハ此ノ匡正改革ニ付テ他ノ諸命令ヲ下スルモアル可シ

第百二十九條 引受人ニテ尋常ノ集會ヲ催スノ權隨意ニ解社スル時ニ當リテ引受人ハ此ノ解散ノ事務ノ閉鎖ニ至ラサル間ハ特別ノ議定或ハ非常ノ議定ヲ行フテ以テ會社ノ許允ヲ得シカ爲メ或ハ其他適當ト見込シ目的ヲ

達センカ爲メ時々尋常ノ集會ヲ催ス可シ若シ又解社ノ事務一ケ年以上ニ亘ルキハ引受人初年ノ終リニ集會ヲ催シ其後ハ毎年ノ末ニ之ヲ催シテ右引受人等ニテ前年ノ所業及ヒ會計ヲ示ス所ノ始末ヲ告知ス可シ

第百四十條 引受人ノ欠員ヲ補フ權

若シ會社所命ノ引受人ノ中ニ病死或ハ辭職其他ノ事故アリテ其職ニ欠ラ生スル時ハ會社ト債主トノ間ノ協同約定ノ趣ニ從ツテ尋常ノ集會ヲ催シテ此缺員ヲ補フヘシ此ノ集會ハ現ニ在勤スル處ノ引受人之ヲ催シ否ラサレハ會社ノ賦金人ニテ之ヲ召集スヘシ而シテ社則ニ依リテ之ヲ取行ヒ或ハ在勤ノ引受人或ハ會社ノ賦金人ニテ裁判廳ニ請求シテ其指令ノ方法ヲ以テ取行フ者ハ正當ノ者ト者做ヤルハカラス

第百四十一條 裁判廳ニテ跡引受人ヲ命スル權

隨意解社ノ場合ニ於テ若シ事故アリテ其事務ヲ取扱フ所ノ跡引受人タル者ナキハ裁判廳ハ會社賦金人ノ請求ニ依リテ一人或ハ二三ノ引受人ヲ命ス可シ且ツ又其ノ事實ノ次第ニ依リテハ現任ノ引受人ヲ免シテ新ニ一人ヲ命シテ解社ノ事件ヲ取扱シム可シ

拵ヘ可キ事

第百四十二條 解社ノ結局ニ至レハ引受人其ノ清美簿ヲ會社解散ノ始末全ク結局ニ至リテ更ニ遺ス処ナキハ引受人ハ解社ノ事ヲ并理セシ所ノ模様及ヒ會社ノ資産ヲ遣拂ヒタル明細ヲ示ス所ノ計簿ヲ拵フ可シ夫ニ付テ引受人ハ此計簿ノ清美ヲ告知シ且ツ其委細ノ趣ヲ并解セシカ為メニ會社總負ノ衆會ヲ催スヘシ此衆會ハ其ノ趣意ト集會

ノ場所及ニ其時日ヲ明了ニ記シテ少クモ一个月前ニ之ヲ新聞紙ニ出シテ公告スヘシ即チ英倫ニ於テハ倫敦ノ新聞紙蘇格蘭及ヒ愛蘭ハ各其都府ノ新聞紙ニ出ス可シ

事

第百四十三條 引受人ハ集會ノ次第ヲ記録司ニ届クヘキ引受人ハ右衆會ニタル月日ト衆會ノ次第トヲ記録司ニ届ク可シ此報告ヲ為シタル月日ヨリ三個月ヲ経ニ於テハ其會社全ク解散セル者ト承認セラレ可シ若シ引受人ノ等閑ニ依リテ此報告ヲ怠ルハ乃チ其等閑ノ間毎日五磅ヲ越ハサル過料ヲ命セラル可シ

第百四十四條 隨意閉社ノ費用ノ事

隨意ニ解社スルニ付キ出来シタル一切ノ費用及引受人ノ給金ハ會社ノ徴収金ヲ以テ之ヲ仕拂フヘシ之ヲ皆済セキ

ル間ハ他ノ負債計未等ヲ償フヲ要セス
第百四十五條 債主ノ權利ヲ守護スル事
若シ随意ノ閉社ニ依リテ債主ノ權利ヲ害スルニ至ルヘシ
ト裁判廳ニ於テ之ヲ思想スルハ官命ヲ以テ解社ヲ爲サ
シメシ者ノ如ク此分散ニ付キテ債主ノ權利ヲ保護スヘシ
第百四十六條 裁判廳ニテ解社ノ所置ヲ撰ム可キ權
會社随意ノ解社ニ取扱リタル間ニ若シ裁判廳ノ都合ニ依
リテ官命ヲ以テ解社ヲ爲サシムル時ハ條理適當ノ場合十
レハ假令官命解散ノ令状等ヲ發出スルモ其手續ハ随意解
社ノ所置ノ全ク或ハ幾分ヲ採用シテ妨ケナカル可シ

裁判廳ノ監視ニ從ツテ解社ヲ爲ス事

第百四十七條 裁判廳ハ請求ニ依リテ監視解散ヲ指令ス

ル權

會社ニテ随意解散ノ決議ニ至リシ時ハ裁判廳ニ於テハ條
理適當ノ場合十レハ命令ヲ下シテ右解散ノ手續中官ノ監
視ヲ仰キ且ツ債主賦金人其他等ニ勝手ニ請求ヲ爲スヘキ
權利ヲ付與シ或ハ一定ノ約束ヲ遵守セシムル様ニスヘシ
第百四十八條 監視解社ノ願書
随意ノ閉社ハ其儘ニテ監視ニ從ツテ分散セン事ヲ請求ス
ルハ裁判廳ニ於テ此後一切ノ訴訟ニ付キテ公裁ノ權利
ヲ得シカ爲メニ之ヲ以テ官命ノ解社ヲ乞フ處ノ願書ト見
做スヘシ但シ之ヲ下條ニハ監視閉社ト稱スヘシ
第百四十九條 裁判廳ハ債主等ノ願望ニ注意スヘキ事
裁判廳ハ先ツ全ク官命ノ分散ヲ請フカ或ハ又官ノ監視
ニ從ツテ分散スルカヲ決シ或ハ一二ノ引受人ヲ命ジ或ハ
監視ニ從ツテ分散スルニ就キ出未ニタル一切ノ事件ヲ取

扱フニ當リテ確証ニ依リテ事實明白ナルハ債主或ハ賦
金人ノ願望ニ注意シテ債主或ハ賦金人集會ヲ催シ而メ其
願望ヲ検査セシカ爲メニ特ニ會議ノ規則ヲ制シ議長タル
人物ヲ命シ且ツ右集會ノ決意ヲ上申スル事ヲ指令ス可シ
若シ又タ債主ノ願望ヲ聞キ亂スルハ其負債價値ノ多少
ニ注意シ賦金人ノ願望ニハ社則ニ依リテ各人ニ付與シタ
ル投票ノ數ニ注意スヘシ

第百五十條 監視閉社ノ時ニ當リテ裁判廳ニテ引受人補
フ命ス可キ權

裁判廳ニ於テ其監視ニ從ツテ分散スル命令ヲ下セシ時ハ
此令狀ハ勿論此後下スヘキ者ヲ以テ現負ノ外ニ引受人補
フ命スヘシ此後ニ命セラレタル引受人ハ自余ノ引受人同
様ノ權義ヲ有シ同様ノ義務ニ從事シ而メ會社ヨリ命セシ

處ノ者ト諸事同様ノ地位ニアツテ決シテ彼此ノ別アラサ
ルヘシ又裁判廳ハ其所命ノ引受人ヲ時ニ轉免シ或ハ轉移
死去辭職業ニテ欠員アルキハ之ヲ填補シ得ヘシ

第百五十一條 監視分散ノ効

裁判廳ノ監視ニ從ツテ分散ノ許允ヲ得タル會社ノ引受人
ハ此事務ヲ辦理スル爲メニ豫シメ官ヨリ定メタル處ノ限
制ヲ守ルルニ當然ナリト云ヘキ其權義ヲ施行スルニ至リテ
ハ全ク随意ノ閉社ニ於ルト同様ニシテ強テ裁判廳ノ許可
ヲ乞フ或ハ其紹介ヲ求ムルヲ要セス但シ前文ノ權義ヲ除
クノ外監視ノ分散ニ就テノ諸命令ハ訟詞及ニ其他ノ公裁
ヲ止メ判スル等都テ官命ノ分散ニ於ルカ如ク同様ナルヲ
以テ此令狀ヲ以テ徵求シ或ハ引受人ノ爲ニタル徵金ヲ催
促スル權限アリ此ノ外ハ全ク官命ヲ以テ解社ノ命ヲ下セ

大
裁
官

此時ニ施行ス可キ一切ノ權義及條款ニ從ツテ引受役ノ見
込ニ任セ共事務ヲ取扱ハシムル指令ヲ為スヘキ權義アリ
此一條中引受役ト稱スル者ハ監視ノ分散ノ事ヲ掌トル所
ノ引受人ヲ指スト知ル可シ

第百五十二條 時宜ニ依リテハ隨意ノ跡請人ヲ官命ノ引
受役ニ命ス可キ事

裁判廳ハ監視分散ノ命令ヲ下シタル後右會社ヲシテ全キ
官命ノ分散ヲ為サシメテ已前ノ命令ヲ取消ス時ニハ此ノ
官命及ヒ其後ニ下サントスル者ニ於テ隨意閉社ノ引受人
ヲ轉シ官命ノ引受人ト為スヘシ但シ此ノ引受役ハ當分ノ
間或ハ永久其職ヲ奉シ或ハ人員ヲ添加ス等勝手タルヘシ

追加ノ款條

第百五十三條 分散取掛リ後ノ所分等ハ無用ニ屬スヘキ

事

裁判廳ノ命ニ依リ或ハ其監視ヲ以テ閉鎖シタル處ノ會社
右分散ニ取掛リタル時日ヨリ分散ヲ命令シタル時日迄ノ
間ニ取扱ヒシ處ノ資産ノ所分配當及ヒ株數ノ譲リ渡シ社
員ノ進退等ハ裁判廳ノ特命アルニテアラハレハ一切之ヲ無
用ノ事ト為ス可シ

第百五十四條 會社ノ諸書類ハ証拠トナルヘキ事
會社分散ニ及フキニ會社或ハ引受人ニテ取扱ヒシ處ノ書類
計美公文等ハ都テ賦金人ノ取引ニ於ケル如ク外方ニ在リ
テモ之ヲ以テ右事件ニ關係シタル証拠トナルヘシ

第百五十五條 會社ノ書類計算及ヒ公文ヲ處分スル事
此條例ニ從ツテ分散スル處ノ會社已ニ右解散ノ場合ニ及
ントスル時ニハ其書籍計美引受人及ヒ會社有用ノ公文

ハ左ノ手續ヲ以テ之ヲ處分スヘシ即チ裁判廳ノ命ニ依リテ分散シ或ハ其監視ニ從ツテ分散セシ者ナレハ同官ノ指令ヲ俟テ之ヲ處分シ若シ隨意ニ分散シタル會社ナレハ其非常ノ議定ノ趣意ニ從フ可シ但シ右解散ノ月日ヨリ五ヶ年ノ後ニ至リテハ右書類ヲ以テ爭訟ヲ起スヲ了リト雖モ已ニ年月ヲ經テ証跡ヲ徵スルニ足ラサル者ト為ルカ故ニ會社或ハ引受人及ヒ誰ニテモ此書類計算公文等ノ管掌ヲ受ケシ者ノ責任ニテラサル可シ

第一百五十六條 書類ノ検査

裁判廳ノ命ニ依リ或ハ其監視ニ從ツテ會社ヲ分散セシ時ハ裁判廳ニ於テ條理適當ノ場合ト思ハ、賦金人ニ指令シテ其書類公文類ヲ検査セシム可シ然ルハ會社ニ於テハ其所有ニ係ル處ノ書類ヲ裁判廳ノ檢閱ニ供スルト同様ニ之ヲ差出スヘシ

第一百五十七條 物件引受人ノ權

此條例ニ從ツテ會社所屬ノ物件ニ就キ訴訟起ルニ當リテ之カ委任ヲ受ケタル處ノ人員ハ自分ノ名目ヲ以テ原告ト為リ又ハ被告ト為リテ此物件ニ關係スル訴訟ヲ勤ム可シ

第一百五十八條 諸ノ負債ヲ採用ス可キ事
此條例ニ從フ會社分散スル時ニハ其臨時ニ仕拂フ可キ諸ノ負債及ヒ現在將來又ハ已定未定ノ損失等一切ノ討未ハ何レモ會社ノ負債トシテ之ヲ取上ケ其高ヲ計リ其事故ヲ糾シテ弁償ノ用意ヲ為スヘシ

第一百五十九條 閉社取纏方ノ見込ヲ許允ス可キ事
引受人ハ其會社裁判廳ノ命ニ依リ或ハ其監視ニ從ツテ分散スル者ナレハ官許ヲ仰キ若シ終始隨意ニ分散スル者ナ

裁判
官

レハ其非常ノ議定ノ承諾ヲ以テ債主ニ負債ノ全高ヲ弁償
シ或ハ債主及ヒ債主ノ代人及ヒ現今將來又ハ已定未定ノ
負債ヲ主張シ會社ヲ相手トシテ損失ノ償贖ヲ討求シテ會
社共責ヲ免シ難キハ其人ト和議熟謀ノ上ニテ償却ノ約
束等ヲ為シ得ヘシ

第百六十條 和談ノ權

引受人ハ官命或ハ監視ニ依リテノ分散ナレハ官許ヲ仰キ
隨意分散ノ者ナレハ其非常ノ議定ノ承諾ヲ以テ凡ソ負債
ト者做スヘキ一切ノ徵求責任及ヒ現今將來已定未定ニ屬
スル諸損失及會社ト賦金人或ハ他ノ負債人ニシテ會社ニ
對シテ其責任ヲ踏ムヘキ者ニ討求ノヲラ談判シ又ハ會社
ノ消債ニ關係シ或ハ分散結局ノ方向ニ於テ會社ニ仕拂フ
可キ金高ヲ受取り負債返済ノ抵當物ヲ領収スル等凡テ引

受人ノ權義ニ屬スヘシ

第百六十一條

會社ノ所有ヲ賣却スル手續料トシテ引受
人株式等ヲ收納スル權

此ノ會社隨意ニ分散ヲ為シ未タ結局ニ至ラスニテ其職業
或ハ所有ヲ他ノ會社ニ讓與セシト欲スル時ハ甲會社ノ引
受人ハ之ヲ其引受人タルノ通義ト其非常議定ノ承諾トニ
照シテ乙會社ト談判ノ上ニテ株式、保險証書或ハ利益金等
ヲ受取リ之ヲ甲會社ノ社負ニ分配シ或ハ右株式、保險証書
或ハ其他現貨ノ代物ヲ請取可キ約定ヲ為スヘシ
一此條例ニ從ツテ斯ノ如ク引受人ニテ取計ヒシ處ノ賣買
又ハ約定ハ乃チ分散スル處ノ會社ノ社負ヲ束縛ス可キ者
ナレハ社負タル者之ニ遵從セサルヲ得ス然レモ若シ社員
ニテ常會ノ節此事ヲ不承諾ト云ヒ張リ為メニ特別ノ集議

株式
集議

ヲ起スヘキヲ引受人迄テ書面ヲ以テ申出テ或ハ異論ノ
趣ヲ本店ニ書留メ置クキハ右議定ノ日ヨリ七日ノ後ニ
引受人ヲ以テ左ノ取扱ヲ為シテ其事ヲ挽回スヘシ其手続
ハ即チ引受人ヲ以テ右常會ノ議定ノ趣ヲ取扱フヲ辭セ
シメ或ハ此後ノ書載仕方ヲ以テ双方決定ノ價ニテ此異論
ノ社員ノ所持スル處ノ利息ヲ買フ可シ但シ此買入ル處ノ
銀兩ハ特別議定ニ依リテ決定シタル通りニ引受人之ヲ徵
集シ而メ會社ノ全ク分散ナル、前之ヲ仕拂フ可シ尤モ會
社ヲ分散シ或ハ引受人ヲ進退スルニ付キテ此前後ニ決
定セシ處ノ者ヲ以テ此條款ニ在ル特別ノ議定ヲ廢止スヘ
カラス又タ監視或ハ官命ノ分散ニ屬スルキノ諸命令ヲ下
シタル一年內ニハ官許ヲ得スシテ右ノ議定ヲ施行スヘカ
ラス

第百六十二條 價ヲ定ムルノ法

異存アル社員ノ利息ヲ買フ可キ價ハ双方一致ノ上ニテ之
ヲ取極ム可シ然レモ之ニ付キテ爭論起ルハ有シハ中裁人
ノ和談ヲ以テ之ヲ定ム可シ右中裁人ノ和談ヲ為スハ爭
論ヲ取極メンカ為メニ一千八百四十五年制定スル處ノ會
社條例中ノ款條ヲ此條例ニ附入スヘシ而メ右條例ノ款條
ヲ援引スルキニハ此條例ヲ以テ特別ノ議定ト見做スヘシ
又其會社ト稱スル者ハ當時分散スル處ノ會社ヲ指ス可シ
又此附入シタル條例ニ從ツテ書記役或ハ支配人二名ノ手
印ヲ以テ承允シタル指令ニ因テ撰定シタル者ハ引受人ニ
テ之ヲ奉行スヘシ

第百六十三條 事宜ニ依リ一切ノ抵當免狀ヲ取消ス事
官命ニ因リ或ハ其監視ニ從ツテ分散スル處ノ會社ハ右分

散 = 取掛リタル後ハ會社ノ資産ヲ抵當トシテ之ヲ取押ハ
ン為メニ差出ニタル免状全ク廢物トナル可也
第百六十四條 偏頗ノ所分

凡ソ會社ノ分散スル時ニ臨ニテ其所有物契券証書又ハ返
金ノ討求其他ノ事件ヲ所分スル事件トクニテ此債主ヲ置
キテ他ノ債主ノ方ヲ弁償スルカ如キ所業アリ之ヲ一商賈
ノ破産ノ際ニ當リ其所業互ニカラス債主ニ對シテ偏頗ノ
処分アル者ト比較シテ其情實異ナラサル時ハ之ヲ會社分
散ノ際ニ當リテモ同様ニ債主ニ對シテ依怙ノ沙汰ト者做
シテ之ヲ廢棄スヘシ且又此條款ノ趣意トシテ凡ソ官命監
視ノ閉社ナルハ會社ヨリ其願書ノ申呈又隨意閉社ナルハ
會社ノ議定ヲ以テ商賈ノ折本破産スル條例ト同様ニ者做
ス可也且又此條例ニ依リテ創立ニタル會社其債主ニ返濟

ノ為メニ資産等ヲ保守人ニ引渡シタル者ハ其物品抵當契
券等全ク廢棄トナルヘシ

第百六十五條 裁判廳ヨリ過失アル支配人及役員ニ對シ
テ償金ヲ定ム可キノ權

此條例ニ從ツテ會社分散スル節ニ舊任現任ヲ論セス其頭
取支配人引受役引受人或ハ會社役員等其取扱ノ失錯ニ依
リテ會社ノ金ヲ引負ニ欠項ト為シ又ハ不正ノ出納ヲ為シ
又ハ取込ニ或ハ會社ニ對シテ違約背信ノ罪ヲ犯シタル者
ノ事ヲ發覺スルトキハ裁判廳ハ乃チ會社ノ引受人或ハ債
主或ハ賦金人ノ請求ヲ案驗シテ其取扱方ヲ審判シ其罪ノ
刑法ニ屬スルヤ否ニ拘ラス其ノ私曲ト為シ或ハ欠項トナ
セシ所ノ銀兩物品ヲ條理相當ト思考スル割合ヲ以テ利息
ヲ加ヘ元利俱ニ差出サシノ其弁償ノコトヲ本人ニ申渡ス可

シ

第百六十六條 書類ヲ偽詐贋造スル罰

若シ此條例ニ從ツテ分散スル處ノ會社ノ頭取役員及ニ賦金人タル者人ヲ欺クノ意ヲ以テ會社一切ノ簿冊証書類ヲ破リ裂キ或ハ剪リ取り或ハ更換シ或ハ贋偽ヲ制作シ或ハ會社ニ屬スル元帳計美帳其他文書ノ記載ヲ偽リ又々差圖シテ人ニ偽ラシムルアルキハ輕罪ヲ以テ之ヲ論シ全ク有罪ニ決シタル上ハ二年以下ノ入牢ヲ命ジ或ハ苦役ヲ課スルヲアルヘシ

第百六十七條 官命ニ依リテ分散スル際ニ過失アル頭取

支配人等ノ追責

官命ニ依リ或ハ其監視ニ從ツテ分散スヘキ命令ヲ下シタル後若シ其分散ノ事件ニ就キテ舊任現任ノ頭取支配人共

他役員社員ノ内ニテ會社ニ對シテ刑法上ノ罪科ニ處スヘキ者アルヲ察覺スル時ハ裁判廳ハ此ノ分散ニ關係シタル人物ノ請求ニ依リ或ハ實際上ノ都合ニ依リテ特ニ引受役引受人ニ指令シテ此罪狀ヲ追責セシムヘシ但シ其公裁費用ノ如キハ之ヲ會社消費金ノ内ヲ以テ仕拂フ可シ

第百六十八條 隨意分散ノ節過失アル支配人等ノ追責

若シ會社隨意ニ分散スル時ニ當リテ舊任現任ノ頭取支配人及ニ其社員タル者其事務ヲ取扱フニ就キテ罪ヲ犯シ會社ニ對シテ刑法上ノ責ヲ免ル可カラサルヲ察覺スルキハ引受人ニ於テハ預シメ得タル處ノ裁判廳ノ允許ヲ以テ此罪人ヲ追責ス可シ而メ右一切ノ入費ハ他ノ負債ニ先ツテ會社ノ消費金ヨリ之ヲ仕拂フ可シ

第百六十九條 偽誓ノ罰

大 裁 官

何人ヲ論セス吟味ノ席ニ出テ此條例ニ從ツテ制定シタル
誓詞或ハ此條例ニ從ツテ會社ヲ分散スルルノ口書決約ヲ
為スニ惡意ヲ懷キテ詐偽ノ証拠ヲ與ヘシ者罪狀判然ト相
決スル上ハ有意偽誓ノ罪ヲ以テ之ヲ論ス可シ

○官廳諸規律ヲ設立スルノ權

第百七十條 英國法務長官規則ヲ設クルノ權
英國ニ於テハ尚書官ト現任法務副長官ノ中一人或ハ又法
務副長官二人ノ同意忠告ヲ以テ英國法務ノ長官ハ條理適
當ノ場合ニ於テ會社ヲ解散スル案件ニ就キテ司法院ニ適
用ス可キ弁理法ノ規律ヲ設ク可シ但シ此規律ヲ設了スル
迄ハ會社解散ニ付キ是迄ヲ履行シ未ルル處ノ規律ト司法院
ノ慣行法トヲ遵奉シテ此條例ト齟齬セサル間ハ別ニ分散
ノ弁理法ヲ用ユルヲ要セス

第百七十一條 蘇格蘭ノ裁判廳規則ヲ設ルノ權

蘇格蘭ニ於テハ衆議廳其集會ノ議定ニ依リテ會社解散ニ
付キ要用トスル處ノ規律ヲ定ツ可シ但シ此規律ヲ設立ス
ル迄ハ衆議廳ニ於テ當時未決ノ訟詞ヲ聽斷スルニハ普通
ノ廳則ノ此條例ト齟齬セサル者ヲ履行シ之ヲ以テ會社ヲ
解散スル處置ノ方法トシテ適用ス可シ且ツ又此場合ニ於
テ引受役ハ折本破産ノ保管人ト同様ノ權利ヲ有スル者ト
知ルヘシ

第百七十二條 錫鑛司廳規則ヲ設ルノ權

錫鑛司副長ハ當女主即位ノ十八年ニ制定セル條例二十三
篇ノ三十二章ニ掲載スル處ノ明文ニ遵照シ此條例ニ依リ
テ副長廳ニ付與シタル権威ヲ實地ニ施行スヘキ規律ヲ設
ク可ク而メ右官廳普通ノ慣行法及シ該廳記録局ノ規則且

又會社解散ニ付テ當時ニ至ル迄右廳ニテ履行ニ来リシ處
ノモノヲ以テ此條例ニテ許可シタル處置法ニ通用ス可シ
又右副長ハ前同件ノ條例ヲ照シテ解散ノ事ヲ弁理スル為
メニ條理適當ノ場合ニ於テ右官廳ニ取立ツ可キ手数料ノ
高ヲ定ムヘキ規程ヲ立ツ可シ斯ノ如ク設立セシ處ノ規程
ハ乃チ此條例ノ明文ヲ以テ議定シタル者ト同様ニ之ヲ施
行スヘシ且又會社ヲ解散スル案件ニ付キ此條例ヲ照シテ
右所置ノ手数料トシテ取立シ金高及ヒ一千八百五十六年
制定ノ合本會社條例ヲ照シテ取立タル手数料ハ須ラク副
長或ハ他人ノ請求ニ依リテ錫鑛總長ノ命令許准ヲ得或ハ
之ヲ分派スルヲ適當ト思ヒシ上ニテ此案件ニ關係スル
官負或ハ現任官負ノ増給或ハ退役セル官負ノ手當其外ノ
拵方ニ使用スヘシ總長ノ指令ヲ得テ之カ遺拵ノ仕法ヲ差
圖スル迄ハ之ヲ以テ政府ノ公証物ヲ求メテ置業ト為シテ
他ノ案件ヨリ取立シ官廳通例ノ手数料ト區別ヲ立テ別途
積金トナスヘシ

第百七十三條 愛蘭法務長官規則ヲ設クルノ權

愛蘭ノ法務長官ハ會社ノ解散ニ就キテ尚書官ノ同意忠告
ヲ以テ其處分ノ規則ヲ設クルヲ恰モ此條例ニテ英國法務
長官ニ付與セシ如キ同様ノ權利ヲ使用スルヲ得ヘシ但シ
此ノ規則ヲ設スル迄ハ會社分散ノ案件ニ就テハ愛蘭從
來ノ慣行法ヲ履行シ其ノ司法院ノ定規ト此條例ノ趣意ト
齟齬セサル者ヲ以テ分散諸般ノ辨理法トナスヘシ

第五篇 記錄官ノ事

第百七十四條 記錄官ノ組立

此條例ニ從ツテ會社ノ記錄ヲ取扱フ事其手續キ左ノ如シ

第一 管商司ハ通常會社登録ノ事ヲ取扱フニ至要ト思量
スル處ノ記録官同佐及ヒ書記從屬ヲ撰定シ又其都合
ニ任セテ之ヲ轉免ス可シ

第二 管商司ハ條理適當ト思量スル處ニ從ツテ前條ノ諸
役員ノ取扱フ可キ職務ノ章程ヲ立ツ可シ

第三 管商司ハ會社ノ記録所ヲ設置スヘキ地所ヲ取極メ
テ其都合此王國內ニテサク凡三部ニ於テ一局ヲ配
置スル様ニ為ス可シ且ツ創立證書ニ因リテ會社ノ
本店ヲ設ク可キ報知アリシ部内ノ記録局ニアラサ
レハ會社ノ登録ヲ許スヘカラス
管商司ハ錫工司副長局ノ記録官ヲシテ其管轄内ノ
記録局ト為シ以テ錫工營業ノ會社登録ノ事ヲ取扱
シム可シ

第四 管商司ハ會社ノ登録ニ就キテ要用トスル處ノ文書
ヲ鑑定スルカ为メニ信印ヲ備ヘ置クヲ時々指令
ス可シ

第五 何人ニ限ラス合本會社ノ記録官ニテ保存スル處ノ諸
文書ヲ檢視スルヲ得ヘシ右檢視ヲ為ス時ハ管商司
ニテ取定メシ見料一ニルリニシテ以下ノ金ヲ其時々
拂フヲ要ス又何人ニ限ラス所有會社ノ結社ノ憑書
及ヒ他ノ公書ノ抄本ノ全部又ハ一部又ハ抜萃ヲ申
受テ記録官ノ證明ヲ所望スル者アル片ハ異議ニ及
ハス之ニ應ス可シ右手数料トシテ管商司ノ取極メ
ノ通り結社ノ憑書ハ五ニルリニシテ抄本又ハ抜萃ハ
一葉及ヒ蕪格蘭ハ二百語毎ニ六ニシテ以下ノ謝金
ヲ拂フ可シ

第六 合本會社ノ記録局ニ從事スル處ノ現任ノ主簿同佐
及ヒ書辦從屬ハ管商司ノ都令中ハ從來ノ職務ヲ奉
シ其給料ヲ受ケ一切ノ規則ヲ履ミ守ルヘシ

第七 管商司ハ大藏理事官ノ許可ヲ得テ此後合本會社ノ
記録局ニ使用ス可キ主簿主簿佐及ヒ從僕ニ給料ヲ
拂フヲ指令スヘシ

第八 此條欸ノ趣意ヲ以テ合本會社ノ主簿ニ取扱方ヲ命
令スルニハ英倫ニ於テハ管商司ヨリ他ノ指令ヲ為
スニアラサレハ合本會社現任ノ主簿之ヲ取扱ヒ共
不在ノ節ハ臨時管商司其委任ノ人ヲ以テ之ヲ為シ
シム蘇格蘭ニ於テハ其合本會社現任ノ主簿愛蘭ニ
於テハ其合本會社現任ノ主簿佐ヲ以テス若シ其不
在ノ節ハ臨時管商司ヨリ委任ノ人ヲ以テ之ヲ為シ

シム可シ若シ又管商司ニ於テ記録局ノ体裁ヲ更換
スルニ於テハ其會社本店ヲ設クヘキ地方ノ都合ニ
依リテ管商司ヨリ一之ノ役負一定ノ地方ヲ撰定シ
テ之ヲ取扱シム可シ

第六編

合本會社條例ノ趣意ニ從ツテ登錄シタル諸會社ニ此條
例ヲ活用スル事

第七十五條 合本會社條例ノ釋義
此條例ニ凡ソ合本會社條例ト掲載スル者ハ千八百五十六
年ノ合本會社條例千八百五十七年ノ合本會社條例千八百
五十七年ノ合本為替會社條例及ヒ合本為換會社ヲ有限責
任ニテ創立セシムル條例或ハ時ニ從ツテ以上ノ條例ノ一

篇或ハ二篇以上ヲ云フナリ但シ女主陛下ノ世第八年ニ創
定シタル條例第一百十卷ノ合本會社登録創立及管理ノ条
例ヲ云フニハアラス

第百七十六條 合本會社ノ條例ニ從ツテ創立シタル諸會
社ニ此條例ヲ活用スル事

此後掲載スル如ク此條例ハ成規第一ノA表ヲ除キ其余ハ
盡ク合本會社條例ニ從ツテ創立シタル者ニ活用スヘシ

一或ハ其意ヲ表ハシ或ハ暗ニ共意ヲ含ニテ登録ノ月日ヲ
指示スル者ハ此月日ヲ以テ合本會社ノ條例ニ從ツテ銘
々ニ登録シタル時日ヲ指示スルト見故ニ而メ有限會
社ノ場合ニ於テハ之ヲ以テ此條例ニ從ツテ分株有限會
社トシテ創立シ及ヒ登録シタル者ト同様手續ヲ履行セ

シメ其他ノ會社ノ場合ニ於テハ之ヲ此條例ニ從ツテ無
限會社トシテ創立シ及ヒ登録シタル者ト同様ノ手續ヲ
履行セシムヘシ

一此條例ノ許可スル處ニ從ヒ特殊ノ決議ヲ以テ會社ノ規
則ヲ改更スル權ハ之ヲ擴充シテ合本會社條例ニ從ツテ
創立シ及ヒ登録セル會社ナレハ千八百五十六年ノ合本會
社條例ノ成規B表中ノ諸个條ヲモ改更シ得ル可シ且又
合本會社條例ニ從ツテ創立シ及ヒ登録シタル無限會社ノ
場合ニ於テハ右會社ノ創立證書中ニ其規則ヲ掲載スル
トセサルトニ拘ラス其資本或ハ分株ニ就キテノ諸規則
ヲ改更スルヲ得ルヘシ

第百七十七條 合本會社條例ニ從ツテ登録シタル諸會社
ニ此條例ヲ活用スル事

此
條

此條例ハ合本會社條例ニ從ツテ創立セサレ其手續キラ
以テ登録シタル者ニ活用スヘシ

一或ハ其意ヲ表ハシ或ハ暗ニ其意ヲ會ミテ登録ノ月日ヲ
指示スル者ハ此月日ヲ以テ合本會社條例ニ從ツテ諸會
社ヲ銘々ニ登録シタル月日ヲ指示スルト見做シ而メ此
條例ニ從ツテ登録ヲ為セシ氏創立ヲセサル處ノ諸會社
ニ活用スヘシ

第七十八條 株式讓渡ノ法

合本會社條例ニ從ツテ登録シタル會社ハ其株式ヲ在来ノ
手續或ハ其他會社ノ指令スル手續ヲ以テ讓渡スコト得ヘ
シ

第七編

此條例ニ從ツテ登録スヘキ准許ヲ得タル諸會社

第七十九條 現存スル諸會社ノ登録規則

此條例ノ中此編ニ從ツテ諸會社ヲ登録スルニ就テハ左ノ
規則ニ着目スヘシ

第一 議院ノ議定或ハ免許狀ニ由リテ社員ノ責任ヲ制
限スル者及ヒ合本會社ニアラサル會社ハ此編ニ
從ツテ登録スヘカラス

第二 議院ノ議定或ハ免許狀ニ由リテ社員ノ責任ヲ制限
スル會社ハ此篇ニ從ツテ無限會社或ハ保承有限
會社トシテ登録スヘカラス

第三 合本會社ニアラサル會社ハ此編ニ從ツテ分株有
限會社トシテ登録スヘカラス

第四 社員登録ノ事ヲ協議セニカ为メニ平常會議(本社

裁省

ノ規則ニテ名代ノ發言ヲ許ス時ハ右會議ニ名代
ヲ出頭セシメテ出頭ノ人数倍數ノ同意ヲ得ルニ
アラサレハ會社此編ニ從ツテ登録スヘカラス
第五 社員等ノ責任ヲ議院ノ議定或ハ免許狀ニ由リテ
制限セサル會社ヲ有限會社トシテ登録スルニハ
其同意ヲ要スル倍數ハ本人代人ノ發言ヲ論セス
會席ニ出頭シタル社員等ノ四分ノ三以上タルヲ
要ス

第六 會社ヲ保承有限會社トシテ登録スルニハ社員ニ
テ右名目ニ登録ヲ請フノ同意ヲ得ル而已ナラ
ス其上ニ社員タル者其各社員タル間ハ勿論退社
後一年以内ニ本社閉店ノ事アルニ於テハ其所望
通ノ金高ヲ寄賦セシムラ擔承ニ以テ退社前本社

ニテ仕拂フヘキ負債責任及閉店ノ入費ニ出金ス
ヘキ決議ノ公告書ヲ得サル可ラス

投票ノ時ニ此篇ノ趣意ヲ照シテ可否ノ多寡ヲ算スルニ
ハ社員タル者各規則ニ從ツテ其所有スル處ノ發言ヲ為
スヤニ着目ス可シ

第百八十條 登録ニ得ヘキ諸會社
前條ノ事情ヲ除ク外從來ノ規則ニ從フニ於テハ此條例
行ノ時日ニ現存スル處ノ各會社ハ勿論合本會社ノ條例ニ
從ツテ登録ヲ為シ其社員七名以上ヨリ成レル者及此條例
ニテラス凡議院ノ議定或ハ免許狀ニ從ツテ創立ニ或ハ錫
坑廳ノ管下ニ在リテ採礦ノ業ヲ営ミ或ハ其他法律ニ照シ
テ正當ニ創立ニ而メ其社員七名以上ヨリ成レル者ハ何時
ニ限ラス此條例ニ從ツテ無限會社或ハ分株有限會社或ハ

保承有限會社トシテ登録スルヲ得ヘシ依令會社ヲ閉店
スル目的ヲ以テ斯ノ如ク登録ヲ為ストイハレ其登録ハ正
當ノ者ト者做スヘシ

第百八十一條 合本會社ノ釋義

分株有限會社トシテ登録ヲ為シ得ヘキ諸會社ノ品種ヲ示
サシカ为メニ此條例ノ此編ニ於テ凡ソ合本會社ト掲載スル
者ハ其資本分株ノ高ラ定メ之ヲ積金トシテ或ハ所有シ或
ハ之ヲ讓渡シ或ハ一部ヲ一法ニ依リ一部ヲ他法ニ依リテ
分割シ而メ所有スル株金ヲ永世拂濟シ或ハ表向ノ資本ト
シテ保有シ而メ其社員ハ只此資本ノ株主或ハ積金主而已
ヨリ成ル會社ヲ云フナリ且此條例ニ從ツテ責任ヲ限リテ
登録スル者ハ之ヲ分株有限會社ト者做スヘシ

第百八十二條 為換會社ノ定則

英國內ニ於テ金券ヲ發行スルノ權利アル為換會社ハ此發
行シタル金券ニ付キテ其責任ヲ限ルナク之ヲ無限ノ責
任ト者做スヘシ而メ要用ノ時ニ當リテハ其資産ヲ總債主
ノ利分ニ活用スルヲ以テ其社員ハ有限會社ノ社員タル責
任ノ上ニ此發行シタル金券惣高ノ出金ヲ添ヘ命スヘシ
第百八十三條 諸會社登録ノ願書
此編ニ從ツテ合本會社ヲ登録スルニハ預メ左ノ書付ヲ記
録官ニ差出スヘシ

一 登録ノ前全六日以内ニ此會社ノ社員タル人ノ姓名宿
処家業及ヒ其各有スル株此株ニ番号ヲ付スル片ニハ
各其番号ヲ區別スラ記セル目錄書

二 議院ノ議定官許狀、免許狀、詔書、組合契約書、出納錄規則
書或ハ其他會社ヲ創立整理スル書付

三 若し此合本會社ヲ有限會社トシテ登録セント欲スル

時ハ右ノ書類ニ左ノ各條ヲ書添ユヘシ

○此會社表向ノ資本及之ヲ分割シタル株數

○已ニ發行シタル株數及各株ニ付キ入金ノ高

○此會社ノ称号ノ末句ニ有限ノ二字ヲ添ユヘシ

○保承有限會社トシテ登録セント欲スルニ於テハ保承

ノ多寡ヲ定メタル決議書ヲ添ユヘシ

第百八十四條 合本會社ニアラスシテ現存スル會社ヲ登

録スル願

此條例ノ此編ニ從ツテ合本會社ニアラサル會社ヲ登録ス

ルニハ豫メ左ノ書付ヲ記録官ニ差出スヘシ

右會社ノ頭取支配人等ノ姓名宿所家業ヲ記載スル書付

又議院ノ議定書、免許狀、詔書組合契約書、出頭録規則、或ハ

其他會社ヲ創立整理スル書類而メ若シ之ヲ保承有限會

社トシテ登録セント欲スルニ於テハ保承ノ多寡ヲ定メ

タル決議書ヲ添ユヘシ

第百八十五條 現存スル會社株金ノ代リニ積金ノ高ヲ登

録スル權利

此條例ニ從ツテ登録ニ得ヘキ合本會社若シ其資本ノ總高

或ハ其部分ヲ積金ニ変シタル者ナルニ於テハ記録官ニ株

金ノ書付ヲ差出サスニテ其積金ノ高ヲ差出し登録ノ前全

六日以内ニ此積金ヲ所持スル人ノ姓名ヲ記載シテ差出ス

可シ

第百八十六條 現存スル諸會社ニテ其差出書ヲ証明スル

事

記録官ニ差出スヘキ社員頭取等ノ書上及ニ其他會社ニ関

大藏省

係スル明細ノ書付ハ會社ノ頭取ノ如キ重役ニ名以上ニテ
「ウイリヤム」王第四世ノ第六年ニ立定セル條例第六十二
篇ノ趣意ニ從ツテ之ヲ製シ其證憑ト為スヘシ

第百八十七條 記録官ニテ會社ノ事情ニ就キ其證據ヲ求
ムルヲ得ヘキ事

記録官ハ其意ニ充タシムルカ为メニ合本會社ナルト否ラ
サルトヲ論セス現存ノ會社ヨリ其意見ニテ條理適當トス
ル所ノ証憑ヲ求ムルヲ得ヘシ

第百八十八條 為換會社ヲ有限責任トシテ登録スル時ニ
其得意先等ニ差出スヘキ布達

此條例ヲ創定シル時ニ當リテ若シ現存ノ為換會社アリ之
ヲ有限會社ト為シテ登録セント欲スルハ其登録ノ證書
ヲ得ル前三十日ニ其趣ヲ此會社ト引合ノアル得意先ニ布

達スヘシ此布達ハ會社ヨリ直キニ本人ノ許ニ送達スルハ
又ハ會社ト右得意先ト從來往復ノ文通ヲ為シタル所ノ名
宛ヲ以テ郵便ニ托シテ送達スルハ勝手タルハシ同社ニ於
テ右ノ布達ヲ為サ、ル間ハ登録ノ證書ヲ得ルモ之ヲ正當
ノ者ト看做サスシテ可ナリ

第百八十九條 會社ノ体裁ニ依リテ手数料ヲ免除スル事
此條例ニ從ツテ會社ヲ登録スルニ當リテ若シ之ヲ有限會
社トシテ登録セス或ハ有限ト為スモ其以前ニ他ノ議院ノ
議定或ハ免許狀ニ由リテ其株主ノ責任ヲ制限スル者ナレ
ハ一モ其手数料ヲ拂フヲ要セス

第百九十條 會社共名号ヲ更改スルノ權
此條例ニ從テ責任有限ノ名目ヲ以テ登録スルヲ許サレ
タル會社ハ其營業ノ何等タルヲ論セス其名号ヲ更改シテ

有限ノ二字ヲ加ユルヲ得ヘシ

第百九十一條 現存スル諸會社ノ登録證書

登録ノ事ヲ願フ處ノ會社此條例中ノ登録規則ヲ履行シ而
メ成規第一ノB表及C表ニ從ツテ其手数料ヲ拂納シタル
以上ハ記録官ニ於テ親筆押印ノ証書ヲ與ヘテ右會社ハ乃
チ此條例ニ從ツテ創立セシ者ナル趣ヲ証明シ有限會社ナ
レハ其責任有限ナルヲモ證明スヘシ右手数料済ノ後ニテ
會社始メテ成立シ永代其業ヲ継続シ會社ノ公印ヲ鑄造シ
地面ヲ所有スヘシ蕪格蘭ニ於テ右ノ手数料以テ為換高社
ヲ創立スルキハ之ヲ以テ議事院ノ議定ニ從ツテ創立結社
ニタル者ト看做シ別段ノ手續ヲ要セス

第百九十二條

證書ヲ以テ條例ヲ遵奉シタル證據トナス

ヘキ事

此條例ニ從ツテ登録スル處ノ會社ニ付共ニタル創立証書
ノ與書ハ之ヲ以テ即チ此條例ニ從ツテ登録シ其手数料ヲ殘
ラス履行シタル旨ノ確證ト為リ而メ其會社ハ此條例ニ從
ツテ或ハ有限或ハ無限トシテ登録ノ許可ヲ得タル證據ト
為ルヘシ且ツ右與書中ニ記載スル處ノ月日ヲ以テ會社此
條例ニ從ツテ創立シタル月日ト看做スヘシ

第百九十三條 所有物ヲ會社ニ讓渡ス事

此條例ニ從ツテ會社ヲ登録スル月日ニ於テ若シ其會社ノ
所有トナシ又ハ之ニ讓リ渡スヘキ動産、不動産、及之ヨリ生
スヘキノ利益、權利、及訴訟中ノ事物アル時ハ盡ク之ヲ登録
ノ時ニ會社ニ讓渡シ總テ其會社所有ノ資産及ヒ利益トナ
スヘシ

第百九十四條

此條例ニ從ツテ登録スル時ハ其前ノ負債

ヲ妨ケサル事

此條例ニ從ツテ會社登録ヲ為ス時ニハ其前右會社ヲ相手トシテ討求スル處ノ責任或ハ右會社ニテ之ヲ討求シタル權利或ハ其負債或ハ之ニ關係シタル取引等ハ總テ其供ニ為シ置キ登録ノ為メニ之ヲ取消スルナリ

第百九十五條 在來ノ公事訴訟ヲ連續スル事

此條例ニ從ツテ登録スル處ノ會社若シ其登録ノ時ニ當リテ右會社或ハ其役員或ハ其社員原告ト為リ或ハ被告トナリテ取押リ未タ決案ニ到サル處ノ公事訴訟ニ法律上ノ應答等ハ總テ登録セサル以前ノ手續ニ從ツテ之ヲ連續シモ更改アルハ勿ラス但シ右公事ノ決詞判断指令ヲ得タルニ其社員ノ所有ヲ抵当トシテ之ヲ取押エ可ラス若シ又々同社ノ資産所有ヲ以テ右公事ノ用ニ充分ナラサル時ハ閉

社ノ命ヲ下スヘシ

第百九十六條 條例ニ從ツテ登録ヲ為スノ效

會社此條例ノ此條例ニ從ツテ登録ヲ為ス時ハ即チ此登録ヲ以テ議事院ノ議定中ノ諸ヶ條組合契約書出納規則免許狀及其他會社ヲ創立整理スル處ノ一切ノ書付若シ又右會社ヲ保承有限トナシテ登録スル場合ニテハ保承ノ多寡ヲ定ムル所ノ議定ヲ以テ總テ創立証書及ヒ會社定款ト同様ノ手續同様ノ趣意ニテ遵奉履行シ之ヲ以テ右會社ノ定則ト見做スヘシ且ツ左ノ條則ニ據リテ此條例ノ各條ヲ總テ此條例ニ從ツテ創立スル處ノ會社其社員其賦金其債主ニ適用ス可シ其條則ハ

一 此條例成規第一ノA表ハ之ヲ特殊ノ決議ニ依リテ決定スルニテラサレハ此條例ニ從ツテ登録シタル會社

= 治用スヘカラス

二 株式番割 = 関係スル此條例中ノ个條ハ之ヲ株式ヲ番割セサル処ノ合本會社ニ治用ス可ラス

三 會社ハ議事院ノ議定中會社ニ関係スル処ノ个條ヲ改更スルノ權利ヲ有ス可ラス

四 會社ハ管高司ノ指令ヲ得スレテハ免許状中會社ニ関係スル个條ヲ改更スルノ權利ヲ有ス可ラス

五 會社開店ノ事アルニ當リテハ法律或ハ公平法ヲ照シテ其ノ登録ヲ為ス以前ノ負債責任ヲ返辦シ或ハ開店ノ費用ヲ仕拂フ等總テ右負債責任ニ関係シテ出金セサルヘカサル人々ヲ賦金人ト云フ此賦金人ハ開店ノ時ニ當リテ須ラク右ノ責任ニ應シテ徵求スル処ノ金高ラ會社ニ納メテ其義務ヲ盡スヘシ若シ又右賦金

人死去ニ或ハ破産解業ニ或ハ婦女ニシテ婚嫁スル等ノ事アル片ハ死去セル賦金人ノ名代人相続人受托人及破産解業セル賦金人ノ受托人及ヒ婚嫁シタル賦金人ノ本夫ニ就テノ條款ニ從ツテ之ヲ辨理スヘシ

六 若シ會社原来此條例ニ從ツテ創立シタル者ナレバ茲

= 掲載スル処ノ條款ヲ以テ詔書組合契約出納規則免許状及其他創立証書ニ掲載シテ改更スルヲ許サスル処ノ會社ヲ創立整理スル書類中ノ諸个條ヲ改更スヘカラス

但シ茲ニ掲載スル條款ヲ以テ議事院ノ議定詔書組合契約免許状其他會社ヲ創立整理スル書類ニ依リテ此編ニ從ツテ登録スル會社ニ付共スヘキ結構規則ヲ改更スルノ權利ヲ取消ス者トスヘカラス

第九十七條 裁判廳ニ於テ公裁ノ手續ヲ制限スル權
裁判廳ハ此編ニ從ツテ登録シタル會社ヨリ閉店ノ稟書ヲ
差出セシ後及會社ノ債主ノ請願ニ依リテ閉店ノ命ヲ下ス
前何時ヲ論セス右會社及其賦金人ヲ相手トセル公事訴訟
其他公裁ノ手續ヲ其廳ノ適當トスル所ノ約定ヲ以テ差止
メ猶豫スルコトアルヘシ

第九十八條 會社ヲ閉鎖スルノ命令

此編及前文ニ掲載スル條則ニ從ツテ登録シタル會社ニ閉
店ノ命令ヲ下シタル以上ハ右會社ノ負債ニ就テ其賦金人
ヲ相手トシテ公事訴訟其他公裁ノ手續ヲ開キ或ハ之ヲ施
行スヘカラス 裁判廳ヨリ差圖スル所ノ約定ニ從ヒ或ハ
其許可ヲ得ル者ハ此限ニアラス

第八編

登録セサル諸會社ニ此條例ヲ活用スル事

第九十九條 無登録諸會社ノ閉店

凡ソ會社、組合、同夥ニシテ其社員七名以上ヨリ成リ而シテ此
條例ニ從ツテ登録ヲ為サス此後無登録ノ會社ノ名目ヲ下
ス者ハ議事院ノ議定ニ從ツテ創立スル處ノ鐵道會社ヲ除
ク外ハ總テ此條例ニ從ツテ之ヲ閉店スルコトヲ得而シテ右閉
店ニ關係スル此條例ノ諸ヶ條ハ左ノ取捨ヲ加ヘタル以上
ハ之ヲ悉ク右ノ會社ニ活用スヘシ

一 無登録ノ會社ハ其閉店ノ事ヲ管轄スヘキ裁判廳ヲ取

極メニカ為メニ英國中其本店所在ノ地ヲ以テ登録ヲ
為シタル處ト見做スヘシ若シ又其本店所在ノ地一個
所以上ナルハ乃チ各地ニ於テ登録ヲ為シタルモノト

見做スヘシ尚ホ其他無登録會社ノ本店一ヶ所以上ニ
シテ其内一ヶ所ニ於テ創立ノ手續ヲ立定ムル所ヲ以
テ閉店ノ純目的ニ就テ之ヲ右會社ノ本店ト見做スヘ
シ

二 無登録ノ會社ハ此條例ニ從ツテ隨意ノ閉店ヲ為スヘ
カラス又裁判廳ノ管轄ニ属シテ官命ノ閉店ヲ為スヘ
カラス

三 無登録ノ會社ヲ閉店スル時ハ左件ノ事情アルニ限ル
ヘシ

イ 右會社或ハ分散シ或ハ其營業ヲ止メ或ハ只其業務
ヲ閉止シルカ為メニ其業ヲ営ム時

ロ 右會社ニテ負債ヲ還済シ得サル時
ハ 裁判廳ノ意見ニテ右會社ヲ閉店シテ正當適應ナリ

トナス時

四 無登録ノ會社ハ此條例ノ趣意トシテ左ノ事情アルニ
於テハ乃「其負債ヲ還済シ得サル者ト見做スヘシ

イ 右會社ノ債主タル者法律或ハ公平法ヲ照シテ証券
等ノ憑拠ニ依リテ其債ス所ノ五十磅以上ノ金高ヲ
徴収セシカ為メニ自筆ノ討求狀ヲ認メテ之ヲ會社
ノ本店ニ送達シ或ハ其頭取書記等ノ重役ニ相渡シ
或ハ裁判廳ノ許可指令スル手續ヲ以テ之ヲ送達シ
テ其返済ヲ催促スル時ニ若シ會社ニ於テ催促書到
達ノ日附ヨリ三週ノ間ニ右返済ヲ怠リ或ハ債主ノ
意ヲ満足セシムルヲ怠ル時

ロ 債主ヨリ會社ニテ社員ニ仕拂フヘキ金子ニ就キ右
社員ヲ相手トシテ公事訴訟等ノ公裁ヲ起シ而メ其

裁

趣ヲ其本店或ハ其頭取書記等ノ重役ニ報知シ或ハ
裁判廳ノ許可指令スル手續ニ從フテ之ヲ報知スル
ニ若シ會社ニテ右報知書到達ノ日附ヨリ十日ノ間
ニ右負債ノ請^未ヲ返濟保承又ハ和談スルヲ能ハス又
ハ右ノ公事訴訟等ノ公裁ヲ止メ能ハス又ハ右ノ公
事訴訟等ノ公裁ニ當リテ右一件ヨリ所生ノ雜費入
用ヲ辨償セス被告者即チ社員ヲシテ債主ノ意ヲ滿
足シ能ハサル時

ハ 英倫或ハ愛蘭ニ於テハ若シ債主ヨリ右會社或ハ其
社員或ハ其代弁人ヲ相手トシテ公裁ヲ仰キ裁判廳
ニ於テ法律或ハ公平法ヲ照シテ之ヲ審判シ債主ヲ
以テ有理トスル断決指令ヲ發出スルト並ニ然レ
會社ニテ満足スヘキ辨償ヲ為シ能ハサル時

二 無登録ノ會社ニテ錫坑廳ノ管下ニ在リテ開礦ノ業
ヲ営ム者ノ場合ニ於テ若シ債主ヨリ錫坑副長廳ニ
出訴シテ該廳ノ決斷ヲ得テ右礦山ノ機械物品ヲ發
賣スル時宜ニ及フ時

ホ 蘇格蘭ニ於テハ特殊ノ判決或ハ特殊登録ノ約証ヲ
以テ之ヲ催促スルニ其期限已ニ滿ルト雖モ然レモ
會社ニ於テ尚ホ之ヲ返濟セサル時

ハ 其他裁判廳ニ於テ會社其負債ヲ返濟シ得サルヲ
判然ト見出ス時

第二百条 會社閉店ノ事アルニ及ニテ其賦金人ト為ルハ
キ者ヲ見定ムル事

無登録ノ會社ヲ閉店スルニ當リテハ法律或ハ公平法ヲ照
シテ右會社ノ負債責任ノ還濟ヲ擔當シ或ハ各自社員タル

ノ義務上ヨリ若干ノ仕拂ヲ為シ或ハ閉店ノ諸雜費ヲ仕拂
フヘキ責ニ任スル人々ヲ以テ右會社ノ賦金人ト見做スヘ
シ而シテ此賦金人タル者ハ閉店ノ時ニ當リテ各共責任ニ從
ツテ會社ヨリ受取ルヘキ金高フ納メテ共徵求ニ充テスヘ
シ若シ右賦金人タル者死去シ或ハ分散解業シ或ハ婦女ニ
シテ婚嫁スルキハ乃チ死去シタル賦金人ノ名代人相統人
受託人及ニ分散解業セル賦金人ノ受託人及婚嫁シタル賦
金人ノ本夫ニ就キテ制定スル處ノ条則ヲ之ニ活用スヘシ

第二百一条 裁判廳ニ於テ公裁ヲ猶豫スル權

裁判廳ハ無登録ノ會社ヨリ閉店ノ願書ヲ差出シタル後及
會社ノ債主ヨリノ請願ニ依テ閉店ノ命令ヲ下サレル前何
時ヲ論セス右會社及其賦金人ヲ相手トシタル公事訴訟等
ノ公裁ヲ条理適當ト考フル所ノ約定ニテ猶豫スルコトヲ得

ハシ

第二百二条 會社ヲ閉鎖スル命令ノ効

此条例ニ從ツテ創立シタル諸會社ヲ閉鎖スルコトニ就キテ
此前ニ記載シタル条則ヲ履行シタル上更ニ無登録ノ會社
ニ閉鎖ノ命令ヲ下シタル後ハ右會社ノ負債ニ就テ其賦金
人ヲ相手トシテ公事訴訟等ノ公裁ヲ起スヘカラス又之ヲ
施行スヘカラス尤裁判廳ヨリ差圖スル所ノ約定ニ從ヒ或
ハ其許可ヲ者ハ此限ニテラス

第二百三条 無登録ノ會社ノ定則

若シ無登録ノ會社共會社ノ公名ヲ以テ原告ト为リ被告ト
為ルノ權利ヲ有セサルカ又ハ或ル道理ニ因リテ都合便利
ト見ユル所ハ裁判廳ハ其下ス處ノ閉店ノ命令又ハ其他ノ
指令ヲ以テ右會社及ニ其委任代理者ノ所有タル一キ動産

裁
省

實産关之ニ關係シタル一切ノ利益、権理、需要、訴訟未決ノ事
件ト共ニ會社ノ引請役ノ役名ニ當テ其擔當兼任トナスヘ
キ旨ヲ指令シ其指令中ニ右擔當セシムル處ノ部分ヲ明細
ニ枚舉スヘシ然ル以上ハ引受役ニテ裁判廳ノ指令從ヒ或
ハ其役名ヲ以テ辨償ヲ為シタル後ニ其引受タル所有ニ関
係シタル公事訴訟等ノ公載ヲ辨理シ或ハ閉店ノ事ニ結局
シ或ハ其所有ヲ回復セシカ为メニ公事訴訟等ノ公載ニ於
テ原告ト为リ或ハ被告ト为ルヲ得ヘシ

第二百四条 此編ノ定則ハ追加タル事

無登録ノ諸會社ニ關係シテ此篇ニ記載スル處ノ定則ハ乃
十官命閉店ノ事ニ就テ前条記載ノ定則ヲ追加セル者ニテ
決シテ前条記載ノモノヲ制限スルモノト者做スヘカラス
又裁判廳或ハ引受役ハ無登録ノ會社ニ對シテハ何レモ此

編ニ記載スル條例ノ追加トシテ此條例ニ從フテ創立シタ
ル會社閉店ノ時ニ施行スヘキ權利ヲ有シ其取扱ヲ為シ得
ヘシ但シ無登録ノ會社ハ其閉店ノ事ヲ除ク外之ヲ此條例
ニ從フテ創立シタル會社ト見做ス可ラス仮令之ヲ斯ク見
做スモ只々此編ニ記載スル定則ノ外ニ出スヘカラス

第九編

條例及假定則例ノ取消

第二百五條 條例ノ取消

此條例發行ノ後ハ成規第三ノ第一編中ノ諸條例ヲ取消ス
ヘシ但シ其第二編中ノ諸條例ニ至リテハ之ヲ再定シテ取
消シ前ノ如ク適用スヘキ旨ヲ茲ニ掲載スルナリ
第二百六條 取消ヤスシテ残スヘキ个条

既ニ取消ノ議定ニ及フト虽モ左ノ各条ハ之ヲ取消ノ外ト者做スヘシ

一 取消前ノ条例ニ從ツテ正當ニ施行シタル事件

二 取消前ノ条例ニ從ツテ登録シタル會社ノ創立

三 取消前ノ条例ニ從ツテ受用シタル權利殊典或ハ承當

スヘキ責任

四 取消前ノ条例ニ從ツテ或ル罪過ニ因リテ取立タル罰

金科料等

五 千八百五十六年制定ノ合本會社條例ノ成規中ノB表

或ハ此條例發行ノ時ニ存在スル會社ニ活用スヘキ共

部分

第二百七條 閉店ノ時ハ存在スル公裁ヲ取消サス之ヲ之

ヲ未結トナスヘキ事

此條例ヲ發行スル以前ニ舊條例或ハ取消シタル條例ニ從
ツテ閉店ノ命令ヲ被ル者或ハ隨意閉店ノ決議ニ及ヒタル
者ニ於テハ其會社ヲ閉鎖スル手續ハ恰モ此條例ヲ制定セ
サル以前同様ニ取扱ヒ而シ其閉店ノ手續中ハ右取消ノ条
例ヲ充分ニ履行スヘシ

第二百八條 讓渡證券ヲ取消サ、ル事

此條例ヲ發行スル以前ニ若シ旧條例ニ依リテ讓渡典當等
ノ證券ヲ立テ用ユルコトアルハ右證券ハ乃チ此條例ノ制
定以前ニ同様ニ其用ヲナスヘシ

第二百九條 嚴命ニ依リテ登録スル處ノ會社

女主陛下ノ世第八年ニ議定ニ屬シ合本會社ノ登録、創立及
規則ト稱スル條例ノ第一百十卷ノ趣意ニ從ツテ始終登録
シタル處ノ各保承會社ハ千八百六十二年第十一月二日迄

且又取消シタル条例ノ明文ニ依リテ右合本會社ノ議定ニ
從ツテ登録スヘキ諸會社ニテ未タ其登録ヲ為サ、ルモノ
ハ此条例施行ノ後第三十一日迄ニ之ヲ前条ニ記載スル規
則ヲ照シテ登録シテ乃チ此条例ニ從ツテ創立シタル會社
ト為スヘシ但シ女主陛下ノ第八年ニ創定シタル条例ニ從
ツテ始終登録シタル會社ハ其免許狀ノ寫本ヲ記録司ニ差
出スヲ要セサル者トス且右保承會社ヲシテ此条例ニ從ツ
テ登録セシメシカ為メニ此条例ハ其創定ノ後直ニ之ヲ
施行スルト見做スヘシ然レモ右會社ノ登録ハ此条例
施行ノ時ニ至ラサレハ之ヲ實地ニ施行ス可カラス且此編ニ
從ワラ登録スヘキ會社ノ登録ニ就テハ手数料ヲ仕拂フヲ
要セス

第二百十條 ヲイクトリテ議定二十一年第十四卷第二十

八編ニ從ツテ登録セサル會社ノ罰

前条ノ明文ヲ履行シ而シテ此条例ニ從ツテ登録セサルベカ
ラサル處ノ會社其過誤ニ依リテ定則ヲ守ラサル時ハ右登
録スヘキ月日ヨリ其登録ヲ為ス月日ニ至ル迄左件ノ過誤
ヲ蒙ルヘシ

- 一 右會社ハ法律或ハ公平法ノ訴訟ニ於テ原告ト為ル
ヲ得ス但シ被告ト為ルハ無論妨ケナシ
 - 二 右會社ノ株主ニハ一切配当金ヲ與フヘカラス
 - 三 右會社ノ營業中ハ其日限ニ應シテ頭取ヨリ五磅以下
ノ罰金ヲ出スヘシ而シテ此罰金ハ右會社ノ株主ナルト
為ラサルトヲ論セス何人モ之ヲ取立ルトヲ得テ之ヲ
自己ノ需用ニ充スヲ得ヘシ
- 然リトイヘモ右過誤アルヲ以テ此一条ニ掲載スル處ノ過

急ノ外ニ右會社ヲ以テ不正當ノ者ニ者做スヘカラス自余
ノ罰金ヲ出サシムヘカラス其權利ヲ減損スヘカラス且又
此條例ニ從ツテ登録スル諸會社ハ千八百五十六年七年ノ
合本會社條例ニ從ツテ登録ヲ為サ、ル事故ヲ以テ旧條例
ニ依リテ取立ラルヘキ罰金、料料、又ハ其權利ノ減損ヲ免除
サルヘシ

第二百十一條 會社其本店ヲ轉移スル為メ一時ノ權利
管商司ハ合本會社ノ條例ニ從ツテ登録シタル會社ノ頭取
ヨリ非常會議所定ノ決議且ツ後条ニ記載スル制限ニ從テ
此條例奉行ノ時ヨリ一年以内ニ願書ヲ差出ス、ルニ於
テハ憑書ヲ授與シテ以テ右會社ノ本店ヲ英國及愛蘭ノ一
部ヨリ他部ニ轉移スルヲ許可スヘシ而メ右會社ノ創立
證書ヲ登録シタル合本會社ノ記録官ハ右管商司ノ憑書ヲ

受取ル上ニテ之ヲ其創立證書ニ附箋シ其端末ニ本店ヲ轉
移スヘキ地名ト其月日トヲ記シ添ユルヘシ其後ニテ此記
録官ハ右憑書ニ附箋シタル者ヲ其本店ノ轉移スヘキ地方
ニ在ル合本會社ノ記録官ニ創立證書ノ寫一同列渡スヘシ
而メ乙地ノ記録官ハ右憑書及ニ創立證書ノ寫本ヲ受取ル
上ニテ最初甲地ニテ登録シタル時ノ如ク手数料ヲ收納シ
テ同様ノ手續ヲ以テ登録ヲ為シムヘシ然ル以上ハ其本
店ノ所在ハ乃チ乙地ニテ登録ヲ為シ右憑書中ニ記載スル
月日ヨリ乙地ヲ以テ其処ト為スヘシ尤モ右轉移ニ就キテ
其前同社ノ取扱ニ屬スル事件ヲ更改スヘカラス其權利、義
務ヲ動カスヘカラス
第二百十二條 免狀ヲ出スル制限
管商司ハ移店ノ憑書ヲ發出スル以前右請求ヲ為スヘキ會

社ニ於テ其移轉ノ趣ヲ奉ケ若シ此事ニ就キ不承知ノモノ
アルハ直ニ管商司ニ申立ヘキヲ公告シ左ノ新聞紙ヲ
以テ四週間以上出版シタルヲ判然ト見定ムルニアラサ
レハ前条ニ從ツテ其憑書ヲ授與スヘカラス右新聞紙ハ本
店所在ノ地方ニ發行セル者并共會社、英倫ニテ登録セル者
ナレハ龍動新聞、愛蘭ナレハトブリニ新聞、蘇格蘭ナレハ工
キニホリ新聞ニ限ルヘシ且ツ又管商司ハ右憑書ノ發出ニ
就キテ異論ヲ主張スル者全ク其條理ナキヲ判然見定ム
ルニアラサレハ前条ニ從ツテ其憑書ヲ發出スヘカラス

